

金 光 学 園

やっなみ

2013.12





体育会

ほつま祭



部活動紹介

新聞部

部室にある古い新聞を探ってみると、30年前の新聞がみつかった。タブロイド版のほつま新聞は、現在年2回発行となっている。この9月に発行されたほつま新聞で通算194号となった。9月にはつまつま祭紹介新聞、3月の卒業式に1年間の学園の様子をまとめた新聞をそれぞれ発行している。その他、手書きの新聞（新任の先生や教育実習生の紹介、中高体育会の速報など）を発行している。夏には9月発行の新聞作成のため、毎年校内で1泊2日の合宿を行っている。また近年浅口商工会議所発行のあさマガ作成の協力をしている。

昨年40年余り前に新聞部員だった方にお話を聞きする機会があった。当時は部員数が30人近くいて、放課後毎日集まり、取材をしたり原稿を書いたりとかなり活発に活動していたようだ。現在の部員数は中一3名、中三4名、高三1名の計8名。昔の活気ある新聞部を目指して、部員を募集中です！

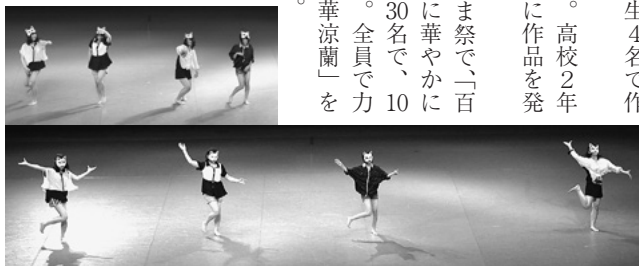


ダンス部

ダンス部として作品発表するのは、年2回です。ひとつは、毎年6月に開催される岡山県高等学校総合文化祭―岡山県高等学校ダンス発表会です。平成25年度は、6月22日（土）倉敷市民会館で開催されました。本校からは、高校2年生4名で作品を発表しました。

もうひとつは、ほつま祭です。高校2年生をリーダーとして、学年ごとに作品を発表しました。本年度は、9月15日（日）ほつま祭で「百華涼蘭」と銘打って、蘭のように華やかに涼しげに、中1から高2までの30名で、10作品を踊らせていただきました。全員で力をあわせ、それぞれに作品「百華涼蘭」をつくりあげることができました。

ひとつの作品をつくりあげるには、とても時間がかかります。そして、友達同士の協力はかせません。苦勞してつくりあげた作品は、とても愛しいものです。これからもどんどんエネルギーギッシュに作品をつくっていきたいと思います。



今、10年後の今日であると想像してください。

今日は私が、仕事やいろんな場面で煮詰まった時に、最終的に用いる思考法についてご紹介させていただきます。

小川 恭史

まず、今が10年後の今であると想像します。その場面での私は、家族にとって、会社にとって、ひいては日本にとって、さらには世界にとって「理想的な人間」になっています。それはもうこれ以上良くなりようがないほどの完全な人間です。パワフルで、誰からも信頼され、かわるすべての人を幸せにする。とにかく一点のすきもない完璧自分です。空想の世界ですが、私にとって私自身が完璧な人間（あくまでも勝手な想像ですが）になっていることを考えることは、とても楽しいことですし、なんとなく勇気がわいてきます。

「空想と戯れることなしに、創造的な仕事が出来たためしがない。

想像に対する恩義は計り知れないものがある カールユング」

という言葉にもあるように未来があたかも今、現在であるという位置で想像すると、それまで大変な障壁であると思っていたことが、とても小さく見え、自信が湧いてくるという効果を得られるような気がしています。

そのうえで、理想の自分になるためにはどうすればいいのかということ問いかけ、一つずつ行動していくようにしています。と格好いいことを言っておりますが、もちろん理想の人間になれるわけもなく、空想にまみれながら、少しずつ前進できればと思っております。歴史と伝統のある金光学園の精神、子供たち、諸先生方、そして保護者会の皆様とかかわらせていただきながら、理想の保護者に向けて！

（金光学園やつなみ保護者会 副会長）

目次

巻頭言	1
金光学園創立百十九年記念式道(8)	2
学園生の故郷	10
活躍する卒業生 大室 豪樹	12
やつなみ保護者会のページ	14
やつなみ保護者会研修旅行	16
友愛セールの御礼	17
会報	18
学園随想(9) 藤原 俊浩	19
ある日のホームルーム	20
探究授業報告	22
メタセコイヤ	24
活躍おめでとう	26
東京研修旅行	30
SSH宿泊研修記	34
韓国・春川女子高等学校第4回姉妹校交流	36
韓国・仁川英語村研修	41
高二修学旅行	44
ほつま祭	48
中学体育会	58
生徒会活動	62
生徒入賞作品	67
学園だより	82
教室の窓から	86
編集後記	90

金光学園創立百十九年記念式



金光学園創立百十九年記念式が、11月14日、厳かに挙行された。天候にも恵まれ、朝8時15分、校長と生徒代表（高3 藤井 祐樹君、中3 金光 彩乃さん）が本部広前に参拝し、教主金光様にお礼のお届けをした。

ほつま体育館では、10時に音楽部による「神人の栄光」の演奏で祭事が始まった。理事長が神前に向かいお礼・お願いの詞を奏上され、各代表より玉串が奉奠された。式典では、25年動続の中島覚教諭と谷野一忠教諭が表彰を受けた。続いて理事長挨拶、校長式辞、金光教務総長祝辞、生徒代表の所願表明の後、学園歌斉唱で式典は締めくくられた。

11時30分から 大西有三氏（関西大学特任教授 京都大学名誉教授）より記念講演をいただいた。氏は「世界へはばたく若者へ」大学の教育現場からのメッセージ」をテーマに講演をされ、今後の生き方に大きな示唆をいただいた。

その後、高校棟前で全教職員の記念写真を撮影した。



御礼・御願

理事長 佐藤 乃武雄

生神金光大神様、天地金乃神様の御前に、学校法人金光学園理事長佐藤乃武雄、謹んで御礼・御願を申し上げます。

地球上のあらゆるものは、天地金乃神様のお恵みによって、生かされて生きております。とりわけ神様は、私たち人間をかわいい神のいとこ子としてお守りくださり、すべての人が助かり、立ち行くことを願っておられます。しかし、人間は、神様のお恵みや心が分ならず、自

分の力で何事もできているように思い、自分勝手な生き方をし、様々な難儀に出合っております。そこで、天地金乃神様は、教祖生神金光大神様を人間社会にお差し向けくださいました。その金光大神様の御取次の働きによって、神様と人間とがあいよかけよで共に助かり立ち行く道が開けてまいっておりますことは、まことにありがたいことでございます。

わが金光学園は、明治27年11月の創立以来、激しい時代社会の移り変わりの中、その折々に建学の精神に立ち返り、その精神は今では「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の学園教育の合言葉に集約され、その願いの実践



と「学徳体」一本の実現を願い、日々の教育活動をはじめ、幾多の容易ならざる事柄にも、それぞれご都合お繰り合わせを蒙り、創立以来19年の立ち行きのおかげを頂いて来ておりますことは、まことに尊く勿体ないことでございます。

殊に、文部科学省によるスーパーサイエンスハイスクール指定も3年目の中間点に入り、これまでの探究学習の成果の上に、全校挙げての取り組みは年々その成果を上げて来ており、この夏の全国SSH生徒研究発表会では、文部科学大臣賞に次ぐ科学技術振興機構理事長賞を受賞するという栄にも浴しました。これら、合言葉の実践・勉学進学の推進・各部活動の興隆等、日々教育成果をあげて来ておりますことは、まことにありがたく、厚く御礼を申し上げます。

このように、広大なる神みかげの中にありながらも、思い至らず起こしております不行き届きのことどもにお詫びを申し上げます。更にここから

のお願いを申し上げます。

金光学園の教育においては、金光教祖の示された「天地の道理」に基づく「建学の精神」を世に顕し、現代社会の様々な問題・難儀を乗り越え、解決していく人材の育成に真に役立ってまいり、「神と人」とあいよかけよで立ち行く「御神願成就の歩みに沿わせていただきますよう、お願い申し上げます。

更に、学園関係者一同、「世話になるすべてに礼をいうころ」をもって、関係かかわり合い睦まじく、学業、諸活動、研究・研修に努め、生徒募集の上にも、学園経営の上にも、ご都合お繰り合わせを頂き、それぞれに立ち行くおかけを蒙らせていただきますよう、お願い申し上げます。

金光学園幼稚園にありましては、本年創立百周年を迎え、記念式典の挙行、園庭遊具の新設や記念誌刊行などの記念事業も滞りなく取り進めることができました。これらの記念行事・事業と将来の学園舎建設資金の積み立てとして、寄付金のお願いをさせていただいたところ、目標額をはるかに超えるご厚志を頂きましたことは、まことにありがたいことであ

りました。国の幼児教育政策が大きく変わろうとしている今日、これまでの歴史と伝統を堅持しつつ、新たな展開を期していくため、万事のご都合お繰り合わせをお願い申し上げます。

さて、本学園は明年に創立120年という節目を迎えます。この節年の記念事業として、「二〇〇記念館」の建設を発願し、ほつま同窓会をはじめ各界に募金をお願いの活動を始めております。そして、来る11月27日には、いよいよ「二〇〇記念館」の着工奉告祭を執り行うご時節を頂いております。どうぞ、明年の記念行事・事業等の諸準備の上に、万事にお繰り合わせを蒙らせていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

生徒・園児一同につきましては、優しさと思いやりの心を育み、身も心も健やかに、勉学成就はもとより、部活動・諸行事・奉仕活動などにも積極的に参加して有意義な学校生活を進め、世のお役に立つ人にお育てをいただきました。家族共々に助かり立ち行くおかけを蒙らせていただきますよう、お願い申し上げます。終わりにあたり、来春の大学進学などに向けて、取り組んでおります高校3年

代校長佐藤一徳先生のお父様にあたり、前校長佐藤元信先生のお祖父様にあたられます。

本校の偉大なる卒業生の一人、中山亀太郎先生が生涯師と仰ぎ慈父と慕った先生であります。中山亀太郎先生は、幼くして秋田県の鉱山の爆発事故でお父様を亡くされ、移り住んだ九州小倉で、5歳になる前に列車事故にあわれ、両手と片足を失われた方で、今から8年前に99歳と8ヶ月でお亡くなりになりました。

お母様と大変な苦難の生活の中で、やがて郷里倉敷に帰り、体の不自由な我が子に、なんとしても教育を受けさせたいという強い母の願いが実現し、中庄小学校への入学が許され、卒業後この学園(当時の金光中学)に入学され卒業された方です。

中山亀太郎先生のお話は、改めて心の教育や宗教授業の時間にさせていただきたいと思いますが、その中山先生が、「金造先生に賜った数々の恩は、筆にも言葉にも表しきれぬものがあります。自分があるのは金造先生のおかげであります」と言われ、最も尊敬され、感謝された先生で、二代校長として金光中学の礎を築

生の生徒たちにつきましては、その持てる力を十分に発揮させていただき、それぞれの願い成就のおかけを蒙らせていただきますようお願い申し上げます。創立119年の記念式の御礼・お願いとさせていただきます。

校長式辞

金光 道晴



ご来賓の皆様には本日は公私ともご多用の中、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。平素から金光学園教育にお祈り添えをいただいておりますことも合わせ、心から御礼申し上げます。

今朝ほどは、創立記念式に先立ち、お天気のご都合もいただき、生徒・教職員そろって金光教本部に御礼の参拝をさせ

いてこられた先生であります。

金造先生は、歌をよく詠まれたのでありますが、学園の中にも大切な多くの歌を残されています。例えば、コーラスやブラスバンドの皆さんはよく知っていると思いますが、毎年卒業式の二部で歌う「若き人よ」という歌は金造先生のお歌であります。「若き人よ 若草もゆる丘に立ちて 東をのぞめ 日はのぼりくる」この歌は大きな夢を抱いて羽ばたいていく若者に対して、熱いエールを贈ったものであります。

また、茶室「碧水庵」の南側の中庭の石碑に刻まれている「母うたへば子もまたうたふ子もり歌 よきは、もつ子よき子もつは、」この歌も二代校長が詠まれたものであります。幼児虐待とか、家庭崩壊などの心の傷む報道があとをたたない今日であります。家庭教育の最も大切な母と子の関係、親子の愛情、深い家庭教育の道を歌われています。

しかしなんと言っても私たちにとつて、最も身近なものは、学園歌であります。「学園歌」は佐藤金造先生の作詞によるもので、昭和25年(一九五〇年)につくられたものであります。爾来学園歌

ていただき、さらに木綿崎山の教団墓地や初代校長佐藤範雄先生の頌徳碑を巡拝して、先ほど帰校してまいりました。

そして引き続きこうして金光学園の119年の誕生日としての創立記念式を挙行させていただいておりますことは、誠にありがたいこととあります。

さて、この創立記念式では毎年、学園の歴史を振り返ってのお話をさせていただいておりますが、このお二人の写真は誰だかわかりますか。皆さんから向かって左側は初代校長佐藤範雄先生、右側は二代校長佐藤金造先生です。今日はこの右側の二代校長佐藤金造先生のお話をさせていただきます。

二代校長先生は、明治12年(一八七九年)にお生まれになり、昭和36年(一九六一年)に83歳で亡くされましたが、18歳のとき、初代校長佐藤範雄先生のご養子となられ、東京大学を卒業された後の、明治の終わりから終戦の前年までの39年間、金光学園の前身である金光中学に勤務され、その間、教頭として初代校長を補佐し、大正13年から昭和19年の退職まで、21年間の長きにわたり、校長としてお勤めになった先生であります。五

は今も入学式や卒業式、体育会などあらゆる機会に歌い続けられています。今日の創立記念式でも式典の最後に一番から四番まで斉唱することになっています。

その学園歌が誕生した当時、すでに金造先生は校長を辞された後のことですが、当時の思いを次のように語っております。

「金光学園歌について一言申し添えておきたい。金光中学校は、長い間校歌を持たなかった。要望の声は常にあったが、そして自分として在職中に幾度か試みてみたが、どうも満足なものが得られず、そのままに終わった。それというのが、校歌である以上、真にその学校の精神がこもらねばならぬ。ところが金光教そのものが、一応独立をしていますが、政府の宗教の制約から、金光教祖の真髄をそのまま現すことが出来ず、又学校においても、法規上十分に金光教の精神を打ち出しえなかつたので、自分自身の歌心に澄みきらぬところがあつたためと思う。ところが、終戦後、信教の自由が確立し、宗教をもとに設立された私立学校も、全面的にその真髄を現すことができるよう

になって、自分の歌心も自由になり、たまたま学園当局からの委嘱により新しく制作する機会に恵まれて、昭和25年の春にやや満足なものが出来上がった。



もとより十全なものではないけれども、幸い当時の音楽の松田豊治先生によつてまことに荘重な曲譜もつけられ、全学園生徒諸君に歌つて貰えるようになったことはまことにありがたいと思つておる」

とその思いを残されて

います。このあと歌わせてもらう学園歌も今から60年以上前、

そのような二代校長先生の願いや思いの中で作られたものであります。改めてそのことを心にとめて、歌いたいと思つてあります。

今日は学園教育に尽力され、大切なものを残された二代校長佐藤金造先生のお話の一端をさせていただきましたが、私たち生徒、教職員には、この歴史と伝統ある金光学園の心を受け継ぎ、より一層学園を輝かせ、発展させていく責務があると思ひます。

学園歌の一番から四番のすべての歌詞の最後は「我等が学ぶ金光の学園永久に光あれ」のことばで締めくくられています。これは生徒、教職員、保護者、同窓生など、全ての学園関係者の願いであります。

だからこそ、私たち生徒や教職員は、先輩たちが築いてこられた伝統ある学園の精神を学び、その跡を受け継ぎ、心新たに歩みを進めていかなければなりません。今日の創立記念式を新たな出発の時ととらえ、ここから一層「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の合言葉を真に大切に、実践してまいりたいと思ひます。

金光学園は来年初立120年を迎えます。来年7月の完成を目指して、今月末にはいよいよ120年記念事業の中心である「120記念館」の建設工事も始まりま

す。明年を喜びをもつて迎えられるよう、生徒教職員が心一つに合わせて、ここからのにちの取り組みを力強く進めて行くことを願い、さらに高校3年生の来春の進学成就を祈念し、式辞といたします。

金光教務総長祝辞

岡成 敏正

今日は、創立記念式を迎えられ、おめでとうございます。

今朝は皆さんが本部広前に参拝され、校長先生と生徒代表の方からお礼のお届けをなさいました。

今から119年前の明治27年11月29日、当学園は初代校長である佐藤範雄先生によつて創立されました。範雄先生は金光教の教祖である金光大神様のもとに初めてお参りされた時に、教祖様から「大願

を成就させる。人を助ける身になれ」とのお言葉を受けられました。それ以来、足繁く教祖様のもとに参拝されるようになり、次第に「人が助かるための学校」「世と人のお役に立つ人材が育つための学校」の必要性を感じるようになられました。そのような願いの中で、当学園の前身である神道金光教会学園所が創設され、そして本日ここに、創立から119年の年月を重ねた記念式をお迎えしておりますことは、私どもにとりまして、まことに感慨深いものがございます。

さて、今日の社会は、政治、経済、教育などあらゆる面において、さまざまな課題が山積し、社会不安はますます広がつてきております。こうした問題のいよいよの根底には、人間をそこに住まわせ、人間の命を命あらしめ、生かし育んでくださっている天地との近しく温かな間柄や、そこへの視座を欠いていることから、「自分さえよければ」という自己中心、人間中心の生き方に陥つていて、人間のあり方の根本的な問題があります。

そうした、社会全体が混迷しているような現代にこそ大切にしたい言葉があり

ます。金光教の教祖様が残された教えですが、「神様は親、人間は子、親子の情はどこまでも変わるものではないぞ。親神様は人間氏子がかわゆうてならぬのぞ」という教えであります。

これは、天地金乃神様のお心を分かりやすく表現した教えですが、天地金乃神様は私たちすべての人間のいのちの親であり、そのお働きに生かされて生きている人間であるという、天地の親神様と私たち人間との本来の間柄を示されたものであり、また人間一人ひとりには、そうした天地の道理に基づいた生き方をし、助かつてほしいという神様の切なる願いが込められています。ところが、私たち人間は、その親神様のお心を分からず、「わが力で何事もやり」という、自己中心、人間中心の生き方に陥つてしまつて、という現実があります。

天地金乃神様は、「信心する者は、木の切り株に腰をおろして休んでも、立つ時には礼を言う心持ちになれよ」、また、「人間は人を助けることができるのはありがたいことではないか。牛馬はわが子が水に落ちて助けることができぬ。人間は見ると助けてやる。人間は病氣災難

の時、神に助けてもらうのであるから、人の難儀を助けるのがありがたいと心得て信心せよ」とも仰せになっています。そのような親神様の願いに触れるとき、私たちは、お互いに、自らを生かしてやまない大いなる天地のお働きの中に身を置く、神のいとし子同士であるとの思いを立ち所として、それぞれの存在を尊び認め合い、共に助かり、お互いを生かし合つていく生き方を進めていくことが、いよいよ大切であると存じます。

このことは、まさしく学園の合い言葉である「人を大切に 自分を大切に 物を大切に」ということと根底においてつながるものであります。そして、この道のご縁につながる私たち一人ひとりが、「神も助かり、人間も立ち行く」というあり方をおして、世界の平和と人類の助かりのお役に立たせていただきたいとの願いを強くするものであります。

明年は、学園創立120年という大きな記念の年を迎えられますが、今日のこの記念式を機に、生徒、職員の皆様を一心にされて、ここからの金光学園の輝かしい歴史をさらに築いていかれますことを期待してやみません。

最後になりますが、本日、永年勤続で表彰をお受けになりました方々には、それぞれの持ち場にあつて、真摯に職務に尽くしてこられたことと存じます。そのご努力に対し、心から敬意を表しますとともに、これからもご健康に留意され、一層のご精進をお祈り申し上げます。また、法人関係の方々をはじめ、校長先生、教職員の皆さまには、今日まで学校運営、学校教育の上に、ひとかたならぬご尽力をいただいておりますことをあらためて厚く御礼申し上げます、お祝いの言葉といたします。

(金光教総務部長 福田浩 代読)

所願表明

生徒代表 井上 全悠



金光学園は、今年創立119年を迎えました。119年という長い歴史の中で、多くの先輩方、先生方の手によって、現在の金光学園が少しずつ築き上げられてきました。本日の創立記念式にあたって、私たちは、改めて先輩たちから受け継いだこの歴史ある金光学園で過ごせることに感謝をし、またこれからの日々を大切に過ごしていくことを決意したいと思えます。そして、時代の変化とともにさらに発展し続ける金光学園であるために、一人ひとりが自覚を持って行動していかなければならぬと実感しております。

さて、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決定されました。私の記憶には、招致委員会の方々の素晴らしいプレゼンテーションが、今も鮮明に残っています。そして、決定した瞬間のあの感動は忘れられません。私はそのパラリンピックに三大会連続で出場している佐藤真海選手のプレゼンテーションに感動しました。それは「スポーツの力」を訴えかけるものでした。その中でも私が印象的だったのは「私にとって大切なのは、私を持っているものであって、私が失ったものではない」と

いう言葉でした。佐藤選手はスポーツによって、このことを実感されたのだと思います。私は、これを聞いた時に「今を大切に生きる」という意味ではないかと思いました。スポーツには無限の可能性があり、人々を感動させる力があります。私も同じスポーツによって、自分の可能性を広げることができました。

私は卓球部に所属しています。現在は障がい者の国際大会にも出場させて頂いています。私は生後まもなく交通事故にあつて、足が不自由になり、障がい者となりました。私は幼い頃からスポーツが大好きでしたが、足が不自由なため、諦めなければならぬスポーツも多くありました。その中で卓球に出会い、卓球なら私でも続けられると考えて始めました。

私の目標は、3年後のリオデジャネイロパラリンピックに出場すること、そして7年後の東京パラリンピックでメダルを獲得することです。そのようなことは無理だと思われるかもしれませんが、目指さなければ達成することはできません。私は目標に向けて挑戦し続けたいと思います。そして、その目標を叶えるた

めには国際大会に出場して、世界ランキングを上げる必要があります。私は、そのため、この夏休みには韓国とタイに、10月には中国に遠征に行きました。そして、12月にはアメリカ遠征に行く予定です。私は、周囲の人の理解もあり、全力で競技に取り組める恵まれた環境にいます。しかし、健常者の選手と障がい者の選手の間には、競技環境において多くの部分に差があります。私は一人の障がい者卓球選手として一流になり、多くの方々に感動や希望を与えていきたいです。そして、障がい者スポーツの素晴らしさを少しでも多くの方々に伝えていくことにより、次世代の選手たちがよりよい環境で障がい者スポーツに取り組めるような手助けをしていきたいと思っております。

学園での卓球の練習は毎日ハードで大変でしたが、そのお陰でとても成長することができました。私がパラリンピック出場という人生の目標を持っていたのも部活動のおかげです。また、この六年間、仲間と共に流した汗と涙は私にとって一生の宝物です。そして、部活動を通して多くのことを学びました。それは努力する

こと、そして感謝することです。自分一人では何もできません。私たちが日々の生活を何不自由なく過ごしているのも、当たり前のように当たり前ではあります。周りの方々のたくさんの支えがあるからこそ、今があると思います。毎日金光学園で勉強ができることも、自分の好きなものに打ち込めることも、多くの方々の力によって支えられているからだと思います。そのことを忘れず、感謝の気持ちを持って、努力をしていく必要があると思います。

長いと思っていた金光学園での生活も、私たち高校3年生にとっては残りわずかなものとなりました。そして、今、次の目標に向けて、受験という壁を乗り越えようと必死で努力をしている毎日です。金光学園で得た力を糧に、自分たちの目標を叶えるために納得のいくまで前進し続けましょう。

そして、後輩の皆さんも、周囲の人に感謝しながら、努力することを大切に、日々を過ごして下さい。夢は叶わないと思ったらそこで終わりです。努力を続けていけば、少しずつでも夢に近づくはずですよ。佐藤選手がおっしゃったように、

自分にとって大切なものは「今、自分が持っているもの」です。それは、家族であり、友人であり、時間であり、そして将来です。夢を目標にかえ、そして実現できるように少しずつ努力をしていきましょう。

最後になりましたが、金光学園は来年120年という節目の年を迎えます。学園の合言葉である「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」を胸に、一人ひとりが金光学園生としての自覚を持って行動することを決意し、金光学園のさらなる発展を願って、所願表明いたします。





道

(8)

金光 道晴

「創立記念式を考える」

今回の「やつなみ」237号に掲載されているように、今年の創立119年の記念式は、先月の11月14日に麗しく挙行させていただきました。しかし、一般には創立119年などの年に創立記念式を行う学校はありません。小学校や中学校では、創立記念式を挙行すること自体がまずありませんし、高等学校では、創立記念式は10年ごとの節目の年に「〇〇周年記念」という言葉を使い、挙行するのが一般的であります。通常の年には行わず、10周年ごとに行われるので、人によっては高校在学時にその節年に当たらず、創立記念式を全く経験することはなく卒業していく生徒もいます。むしろその方が多いのですが、先生たちの中でも、特に公立学校の先生は、何年かごとには転勤があるので、長年勤めた人でも、一度も創立記念式を経験せずに退職するようなこともあるそうです。もちろん反対に新しい学校に転勤する度に、その学校が節年を迎えて毎回のように、赴任した学校で創立記念式を経験する先生もいるのでありますが、おもしろいのは、周年の記念式の前年に一生懸命準備をした先生が、記念式の年には他の学校へ転

り願いたいと思うのです」こんな話をするのです。

さて、本校の毎年の創立記念式で、私はいつも生徒代表の所願表明や素晴らしい記念講演などを聴き、多くのことに感動させてもらっているのですが、それは私だけではないと思います。昨年の小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクタマネージャーの川口淳一郎さんの講演も、今年の前京都大学副学長で卒業生の大西有三先生の講演も大変元気が出るお話やメッセージをいただきました。昨年の中川愛さんの所願表明もすばらしかったですが、今年の高3の井上全悠君の所願表明も大変感動しました。私は実は井上全悠君の所願表明は事前に原稿に目を通して知っていたのですが、改めて足の障害と向き合い、乗り越えて卓球に取り組んでいることを、本人の言葉で聞いて、ステージ上で涙がこぼれてきました。このやつなみに掲載されているので是非お読みいただきたいと思っています。

今年9月にブエノスアイレスで2020年開催のオリンピック・パラリンピック招致のプレゼンテーションが行われたのは記憶に新しいことですが、彼はそのトップバッター佐藤真海さんの「私にとって大切なものは、今持っているものであって失われたものではない」という言葉を引用して、自分の障害と照らし合せて話し、「次回のリオデジャネイロでのパラリンピック出場を果たし、東京パラリンピックでの金メダルをめざしたい」という自らの夢を力強く話してくれました。あの創立記念式に出席していた全ての人に大きな感動

動してしまい、別の学校でいきなり創立記念式を迎えるというような例もあるそうです。そのような他の学校のお話を聞いていると、できれば創立記念式に当たらない方がいいと考える人が少なくないという話を聞いたことがあります。なぜでしょうか。実はその理由ははっきりしていて、それは10年ごとの創立記念式は、言うまでもなく、どの学校でもとても大切にされており、全校あげて挙行し、多くのお客様をお迎えする行事なのですが、その準備や取り組みが大変で、大きな負担になることから、できれば避けて通りたいという気持ちになるのだそうです。果たしてそれでいいのでしょうか。「金光学園は創立記念式を毎年行っていますよ」というと、他の学校の先生方は「それは大変ですね」と同情しておっしゃられます。しかし私は毎年挙行することに、大切な意味があると思っています。その理由を、私は生徒たちには次のようによく話をさせてもらっています。「創立記念式は学校の誕生日ですから、それを関係者でお祝いするのはあたりまえのことですが、人の誕生日は毎年お祝いするもので、家族の誕生日を祝うのに、5年おきや10年おきにやっていると人ははいないと思います。きつと毎年誕生日をお祝いし、ここまで元気に成長させてもらったり、元気で過ごさせてもらったりしたことを喜び、感謝し、ここからの幸せを願い、祈っていると思います。家族の誕生日を家族みんなでお祝いするように、創立記念式も学校関係者みんなでお祝いをし、ここから新たな気持ちで進んでいくことを祈

を与えたいと思います。そして、所願表明をした数日後に行われた障害者の全日本の卓球大会で見事優勝を果たしました。

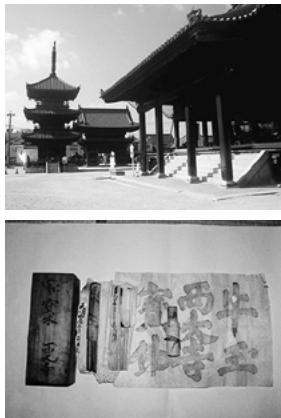
金光教の前教主金光鑑太郎様のお歌に「育ちゆくもののお役に立つことを喜びとなし我も育たん」というお歌がありますが、まさに私たち教職員にとっても、生徒に教えられ、元気をもらい、喜ばせてもらっているのです。私は、この2学期にも色々な高等学校の素晴らしい周年記念の創立記念式に出させていただきましたが、やはり金光学園の創立記念式はこれからも毎年挙行し、今後も学校の誕生日として大切に迎えるとともに、生徒や教職員の新たなスタートの機会にできるような創立記念式にしたいと改めて思っています。来年は120年という節年であります。すでに、11月27日には、創立120年の記念事業の中心である「一二〇記念館」の着工奉告祭が麗しく仕えられ、建設工事も始まりました。これから様々な記念事業や行事に取り組み、学園関係者全員で、心からの喜びと感謝をもって明年の120年の記念式を迎えたいと思っております。

「ここから通っています」 学園生の故郷

岡山市西大寺

西大寺は岡山市の東部、備前平野の中心に位置し、中世から西大寺観音院の門前町として栄えた歴史ある町です。

西大寺観音院は日本三大奇祭のひとつ「裸祭り（西大寺会陽）」の行われる寺院としてご存知の方も多いのではないでしょうか。「裸祭り」は毎年二月の第三土曜日の深夜、九千人以上の「裸」が二本の宝木を奪い合う勇壮な祭りで、宝



木を獲得した男性は「福男」と呼ばれ、その年の福を授かると言われています。十六年前、息子がお腹にいた年に、実家の父が「元氣な子どもが生まれるように」と願をかけて裸祭りに参加してくれました。もちろん福男には生まれませんでした。息子が元氣に生まれ、大過なく成長することができたのも裸祭りのおかげがあったからかもしれません。

西大寺観音院門前商店街の五福通りには今でも昭和のたたずまいが残る懐かしい町並みが広がっていて、映画やテレビのロケ地としてもよく登場します。「ALWAYS三丁目の夕日」「とんび」今年公開予定の「実写版魔女の宅急便」などにも西大寺のノスタルジックな町並みが出てきますので、ぜひご覧ください。

また温暖な気候と、町を南北に流れる吉井川の恵みを受けた肥沃な土地での稲作や、いちご・ぶどう・あたご梨などの果樹栽培も盛んです。いちごは「さがほのか」、ぶどうは「ピオーネ」「デラウェア」などの品種が人気です。我が家のおすすめは、種無しで皮まで食べられる「瀬戸ジャイアンツ」です。甘くて果汁たっぷりですととてもおいしいですよ！

息子は、西大寺駅のひとつ岡山寄りの「大多羅駅」から通学しています。学校までは約一時間の通学時間です。小柄な身体に大きな荷物を抱えて、本当によくがんばって通っています。特に初めころは、慣れない学校生活と電車通学に疲れて眠り込んでしまい、西は大門、東は日生の寒河（一駅先は兵庫県！）まで乗り過ごしたこともあります。それでも毎日元氣に楽しく通学し、学校生活を送ることができるようにも、先生方や先輩後輩、お友達のおかげと本当に感謝しています。

あと二年間の学校生活を、悔いのないようがんばり抜いてほしいと思っています。

高一の母 木下 有希

福山市沼隈町

「みろくの里の麓から通っています」
学園での自己紹介の決まり文句です。今回は私ではなく、沼隈町を紹介します。

沼隈町は福山駅から南へ車で約30分。

広島県の東端で備後灘に突き出た沼隈半島の南部にあります。平成の大合併で沼隈郡から福山市沼隈町になりました。

つい最近、福山市のホームページに「何もないとは言わせない！」というキャッチコピーが登場しました。そうです、沼隈にはみろくの里以外にも「ある」のです。だから、あえて外したいところなのですが、やはりみろくの里から始めます。実はここに隠れ名所があるので。それが「みろくの里セツト村」です。先の大河ドラマの『龍馬伝』でも撮影場所となり、福山雅治もこの地に立ちました。映画『座頭市』もここでの撮影です。しかし残念ながら、一般人の立ち入りは禁止となっているため、入場チャンスはエキストラで……。

絶景の名所としては、国の重要有形文化財である「阿伏兎観音堂」があります。半島の南端に位置し、海に突き出た断崖に建つ朱塗りの観音堂は有名です。回廊は若干海側に傾斜しており、スリルがあります。海からの景観は特に美しく、歌川広重の浮世絵「六十余州名所図会」にも描かれています。千年以上の時を経て存在する観音堂の歴史を紐解いてみるの

も面白そうです。

では次に、その千年程前の歴史ロマンをご紹介します。沼隈町の横倉地区には、源平合戦に敗れた平氏一門で平清盛の甥である通盛一行が、源氏の追手から逃れて沼隈の山奥に分け入り隠れ住んだという伝説があります。馬の鞍も横に傾くほどの細く険しい道であったことが横倉という地名の由来だとか。横倉の谷間は平家谷と呼ばれ、平氏ゆかりの神社がいくつも残っており、これらの神社のしめ縄に飾る御幣は赤い紙が使われています。「赤播神社」には平家の赤旗が祀ってあるそうです。通盛夫妻を祀った「通盛神社」は夫婦円満のご利益があると言われる。沼隈のパワースポットとなっています。平家谷では、毎年季節毎に菖蒲園や椿園が開園します。通盛の妻である小宰相の墓がある「福泉坊」の樹齢250年というしだれ桜はとでもきれいです。

沼隈には世界に知られている物もあります。まずはブドウ。五年前の北海道洞爺湖サミットでは、広島県を代表する果物として各国報道関係者にふるまわれました。夏場には新鮮なブドウを選果場で直接買うことができます。そして毎年



十二月には、ペリーAで作った沼隈ワインも山南の酒屋で販売されます。技術で世界へ誇れるのは常石造船所。七つの海を渡る巨大船舶を造る日本を代表する造船所の一つです。また、沼隈町と対岸の内海町を結ぶ内海大橋は、大きくカーブしたアーチ型の橋で、アメリカ人の建築関係者が素晴らしいともうらした程です。橋も良し、橋からの眺めもまた良しです。

こんな「おいしい広島」の沼隈町に住む娘は、学校が好きで六年間の皆勤を目指して毎日学園に通っています。多感な思春期ならではのこの時を、突っ走り、立ち止まったりしながら「今」を大事に過ごしてほしいと思っています。

高一の母 村上 縁

世界の頂点へ

大室 豪楓 (高64回)



○自己紹介

出身は笠岡市です。金光学園には高校から入学しました。卒業後は大阪府松原市にある阪南大学に進学し、今二回生です。小・中・高までやってきた野球をやめ、今はパワーリフティングという競技をやっています。

○金光学園時代

三年間野球漬けの生活でした。朝練がとても辛かったです。朝早く起きるの

が嫌いで、毎日眠たかったのを覚えています。また、冬のトレーニングではランが死ぬほど嫌でした。その点、パワーリフティングは走ると逆にだめなので、とても嬉しいです。勉強の方もほどほどにやっています。もちろん、好きな教科は体育で、他の教科は嫌いでした。でも、大学進学のためにテスト期間だけは勉強していました。まあ普通の野球部員です。

○大学進学と生活

実は私が大学を選ぶときの条件が、パワーリフティング部がある大学でした。岡山大学に行きたかったのですが、受験に失敗し、阪南大学に進学しました。今となっては、競技に集中でき、たくさん練習もできるので良かったと思っています。帰省したときは岡山大学に練習に行くのですが、勉強はしんどいらしいので：大学生生活は授業を受けた後にトレーニングといった感じです。最低週5で、多いときには7〜8時間練習することもあります。

○パワーリフティングを始めたきっかけ

正直に言うと、この競技を知ったのは高校三年生のときでした。野球部のチームトレーナーの方に勧められて、この競

とで、私の出場が決まりました。

○世界ベンチプレス

今年5月にリトアニアのカウナスで行われた世界ベンチプレス大会に出場しました。世界大会に出場するのも初、海外に行くのも初でした。私はジュニア(19〜23歳)の83kg級に出場し、210kgでなんとか三位に入賞できました。国際大会初出場で初メダルとなり、とても嬉しかったのです。また、一般の部の選手も一緒だったので、トップレベルの試技を見ることができ、外国人との交流もでき、たくさんさんの経験ができるのも国際大会の良いところです。

○笠岡市から表彰

世界大会三位ということで、地元笠岡市からスポーツ特別賞をいただきました。新聞や地元テレビにも報道され、それを見てくださった方々からたくさん声をかけていただき、とても嬉しかったです。この賞をいただくことができたのも、家族の支え、先輩のご指導のおかげであると、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

○今後の目標

将来的には一般の部で世界チャンピオ

技をしようと決心しました。野球が終わってから何度か岡山大学の練習に参加したりもしていました。

○パワーリフティング

よくパワーリフティングとウェイトリフティングを同じものと間違われませんが、全く違います。パワーリフティングは背中にかついで、フルでしゃがむ「スクワット」、台に寝転んでシャフトを胸まで下ろして持ち上げる「ベンチプレス」、床に置いてあるのを引き上げる「デッドリフト」の三種目の合計で争う競技です。そして、ギアというものを着て試合をします。それを着ると普通の状態より記録が伸びます。魔法の服みたいなものです。スクワットは60kg、ベンチプレスは70kg、デッドリフトは50kg変わります。ちなみに、私のベスト記録は、スクワットが290kg、ベンチプレスが212.5kg、デッドリフトが270kgです。

○食事面

食事制限は全くありません。高校の野球部のときの方がきついです。炭酸も菓子パンも全然OKです。ただ、体重は毎朝と寝る前は絶対に計ります。階級があるので、一晩寝るとどれだけ体重が減るかなど、自

ンになることが目標です。近い将来の目標は、まず12月にある全日本ベンチで優勝し、世界ベンチに出場すること、そして世界チャンピオンになることです。そして、23歳までにジュニア83kgの世界記録を樹立することを目指しています。

○メッセージ

私は筋トレはそんなに好きではありません。なぜやっているかは、身体が向いているからです。好きなことを続けるのも良いですが、それなら私は野球をやっています。しかし、野球には限界を感じ、パワーの方が活躍できると思い、選びました。人にはいろいろな可能性があると、視野を広げ、一番輝ける場所を探してほしいと思います。そして、何か一つのことに熱中し極めれば、それが自分を助けてくれると思うからです。



○全日本ベンチプレス選手権大会
今年2月に、世界大会をかけて全日本ベンチプレス選手権大会に出場しました。結果は185kg、三位で世界大会への出場は厳しくなりました。しかし、上位入賞の方が就職活動で出られないというこ

○ベンチプレス
ベンチプレスは私が三つの種目の中で一番好きな種目です。ベンチプレスは筋トレではなくスポーツです。例えば、野球だったら毎日素振りをする。それと同じで、毎日ベンチをします。もちろんオフトはありますが、二日やらないと感覚が鈍ります。ベンチプレスは感覚なんです。語り出すと長くなるのでこの辺で：

分の身体を知らなければならぬからです。また、タンパク質など筋肉が付きやすいものを食べるようにしています。あとは、サプリメントを二種類摂っています。一つはクレアチンと言って、5gで肉1kg食べたのと同じことになるタンパク質が摂れるもの。もう一つは体内で作られないアミノ酸を摂れるBCAAというものです。これは疲労回復に効果があります。サプリメントを摂るのと摂らないのでは疲れも記録も全然違います。

やつなみ保護者会のページ

体育会を観戦して

中一 保護者

前日の雨もあがり、晴天の下での体育会になりました。金光学園での初めての体育会を保護者として、心待ちにしてみました。各種目、さすが中学生と感じさせる躍動感と迫力でした。練習を重ねたマ스ゲームと応援合戦は、思わず『すごい』と声をあげてしまう完成度でした。クラスで学年で兄弟クラスで、先生方や先輩の指導を受け、生き生きと演技する生徒の姿に、心躍り、その中に我が子がいる事に喜びを感じました。入学して半年、学園生としての成長を感じた1日でした。

中学校体育会

中二 保護者

中学最後の体育会は、雨天順延、開始時間を遅らせての開催でした。

各競技とも、3年生ともなれば、パワーアップして、声援にも力が入りました。応援団を中心とした応援合戦は、衣装、マスコットなど至るところに、趣向を凝らしていて、とても見応えがありました。

3年生として、下級生をまとめ、準備に練習にと、大変だったと思います。そんな中で、協力し合い、やり遂げた団結は、友の大切さや絆を深めたことでしょう。

これからも、日々の学校行事の中で、成長を育み、大切な思い出をつくってほしいです。子供たちの心身の成長を感じた1日でした。

高校体育会

高二 保護者

9月27日、爽やかな秋晴れの下、高等

学校体育会が開催されました。

去年に引き続き、今年も学園生らしいおもてなしで私たち保護者も楽しませて頂きました。

ブロック対抗リレーを始め、綱引き、騎馬戦など白熱した戦いに観客席もつい応援に力が入りました。

部活動対抗リレーではそれぞれの部活動の特色を、アイデア溢れる形で表現し、どの部活動も普段見られない様子を見ることができました。

勝負はもちろんですが、皆それぞれの係の仕事を果たし、競技も真剣に取り組み人を思いやる心の優しい生徒の姿を見て、私たち保護者も嬉しく思うと共に、子供達からたくさんパワーをもらっているのだと改めて感じさせられる1日でした。

ほつま祭 模擬店に参加して

高三 保護者

9月15日(日) ほつま祭にあわせて、保護者による模擬店が開かれました。

前日までの晴天がうそのようなどしやぶりの雨。それにもかかわらず、たくさ

んのお客様がご来店下さいました。ぶっかけうどん、焼き鳥、焼きそば、カレー、揚げ串・フライドポテト、アイスクリン、かき氷、ジュース。部屋でくつろげるカフェもご用意。どれも多めに用意したのものお昼頃には早くもほぼ完売しました。各店舗の「〇〇完売しました〜!!!」

と上がっていく声に疲れも飛んでいくようでした。途中、焼き鳥のガスボンベの不具合もありましたが、野球部のお父様の機転で回避。高3の保護者にとりましては長年お世話になった金光学園への感謝の気持ちと、保護者同士で思い出に残る活動をした気持ち、さわやかな

汗をにじませた1日となりました。ご協力頂いたすべての皆様に、感謝申し上げます。

11月11日(月)
**やつなみ保護者会
研修旅行**
教養部
仙石 正恵

11月11日、研修旅行に行つてまいりました。史上最多参加の58名で、一路出雲大社方面に出発です。途中降り出した激しい雨も、お参りする時にはやんで、20数年前、独身の頃するようないい思い出した事を懐しく思い出しつつ、参拝しました。期待に胸をふくらませながら、昼食の魚一へ。食前訓の後、予想以上のご馳走を夢中でいただきましたながら、楽しいお

しゃべりもはずみしました。満腹になり幸福な気持ちのまま、足立美術館で美しい絵画と雨に濡れ、見事な庭を時を忘れて鑑賞して参りました。道中、軽妙なおしゃべりと愛あふれるお気遣いをいただいた、ひかり観光の佐藤さんに感謝申し上げます。初めてのほつま祭で感じた、チーム金光学園の優しく楽しい雰囲気にも包まれた楽しい一日となりました。

今年度も研修旅行を無事に行えます。たくさんのご参加に感謝します。

やや、時間の関係で強硬な日程になった部分も否めませんが、皆さんから聞こえてきた「楽しかったあ」の声の数々がとても印象的でした。部員一同、感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。
(教養部一同)



10月まで続いた記録的な猛暑が嘘のように、11月に入ってから急速に冷え込むようになってまいりました。来春に大学受験を控えておられるお子様がおられる保護者の方々にとりまは、寒さと共にお子様への体調管理に相当神経を使わなければならない時期でもあります。私も2年前には娘が大学受験を迎える前は、とにかく自分が先に風邪をひかないようにしよう、と相当神経を使いました。受験を控える生徒の皆さんが万全の体調で勉学に励まれることを心から祈念申し上げます。

さて、9月に開催されましたほつま祭のバザーの際には、保護者会の皆様に長期間に亘り多大なご尽力を賜り、心からお礼申し上げます。特に女性幹部の皆様におかれましては、準備期間中のご家庭でのご負担も多々あったかと思えます。ご家族の皆様にご迷惑をおかけいたしましたことに対して、お詫び申し上げますと共に、ご理解とご協力をいただきましたことに対してお礼申し上げます。また、野球・サッカー・ブラスバンド他、各部の皆さんを含む多くの生徒の方々が積極的にお手伝いをして下さ

「2013年友愛セール」ご協力の御礼

るなど、例年にも増して保護者と生徒の一体感が醸成されたほつま祭のバザーであったのではないかと、という気がしております。そのような皆さんのご協力のおかげで、約4百万円の売り上げと経費や仕入れ代金を差し引いて、約3百万円の収益金を残すことが出来ました。私も立场上他校の保護者会幹部との会合に出席することがありますが、当校のような規模でバザーを実施している学校はなかなかありません。これもひとえに長年に亘り積み重ねられてきた保護者会の皆様の熱い思いではないかと、思っております。是非来年以降もこの熱い思いが脈々と傳承されていきますことを心からお祈り申し上げます。なお収益金については学校と生徒の皆さんの少しでもお役に立つような使い道を、今後学校と協議していきたい、と思っておりますので、その点についてはあらためてご報告申し上げます。

金光学園やつなみ保護者会
会長 中谷 庄吾

会報

やつなみ保護者会地区会 七月を中心
に二十七の全ての地区で地区会が開催された。平均出席率は四十五パーセントであった。(昨年五十一パーセント)また、止宿の保護者の方にはアンケートでご意見をいただいた。

オープンスクール手伝い 七月二十八日のオープンスクールでは、保護者会三役と各部長他、十三名の役員がお手伝いをし、参加した小学生・中学生・保護者に冷たいお茶やミネラルウォーターを配布した。

第三回評議員会・第二回全役員会 九月三日開催 会長・校長の挨拶、学校近況報告の後、協議報告事項に移った。指導部からは、地区会の報告、街頭・列車補導について、庶務部からは、友愛セール、大祭湯茶接待について、教養部からは、研修旅行と教養シリーズ発刊について、それぞれ報告と協議がなされた。ま

た、友愛セールについての打ち合わせを行った。

友愛セール 九月十四日には準備、十五日にはほつま祭での友愛セールを、全役員が一丸となって取り組んだ。近年遊休品の収集が難しく、一学期から夏休みをかけて、手作り会を開催し、手作り作品を多く販売した。また、高3保護者有志による模擬店も好評であった。(収支決算については別項参照)

金光教大祭湯茶接待 十月三・六・十三日の四日間に行われた、生神金光大神大祭に延べ三十七名の役員が奉仕した。また、十一月一日に行われた、布教功労者報徳祭に七名の役員が奉仕した。いずれも全国の参拝者の方々に湯茶の接待をして大変感謝された。

やつなみ保護者会研修旅行 十一月十一日に出雲大社・松江方面に行った。中谷会長をはじめ、役員、ほつま祭の友愛セール・模擬店お手伝い方を含め五十八名という過去最高の人数が参加し、親睦を深めた。(やつなみ保護者会のページ参照)

第四回評議員会 十二月二日開催 二期の主な行事(友愛セール・大祭湯茶

接待・研修旅行・研修会・補導活動等)の報告及び反省が行われた。

諸会合

- 八月二十二日 全国高P連山口大会 中谷会長他役員五名出席
- 九月二十五日 玉島署管内子どもをもる会の施設研修 平松指導部員出席
- 十月十九日 浅口里庄P連母親委員会研修 楠戸副会長・宮口監事出席
- 十一月五日 県私学秋季研修会 中谷会長他役員七名・教員三名出席
- 十一月六日 県高P連指導者研修会 楠戸副会長他二名出席
- 十一月十五日 備西地区高P連秋季総会 中谷会長・金光校長出席

【H25年度友愛セール決算報告】

取入	支出	使途
友愛セール売上	2,124,245	
模擬店売上	340,230	
醬油等売上	1,488,800	
友愛セール売上追加等(寄付金)	318,971	
合計	4,272,246	
手作り作品材料他諸経費	172,388	
友愛セール用物品購入費	22,465	
友愛セール天野実業経費	977,856	
合計	1,172,709	
収支(収入-支出)	3,099,537	
赤十字事業資金へ	20,000	
私学ボランティア基金特別会計へ	10,000	
社会福祉協議会(歳末助け合い)	50,000	
合計	80,000	
残高	3,019,537	

※印 例年寄付をさせて頂いている団体

ある日のホームルーム



中学二年 五組 六組

十一月二十九日(金)に中学二年のLHRの様子を取材させていただきました。



今回は、二年五組担任の松田恵梨香先生と六組担任の園田泰之先生が「期末考査に向けて勉強する雰囲気を作りたい」と考え、双方がアイデアを出し合った末に出した結論として「クラス対抗テスト」を行うことになりました。前日にクラス代表の生

徒が、相手クラス担任に「挑戦状」を手渡し、

また、生徒が事前に理科IIと歴史の期末テスト範囲を元にオリジナルテストを作成しました。



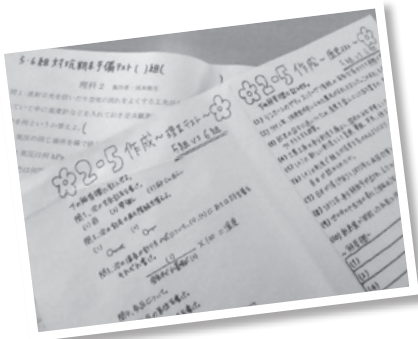
ホームルームの時間が始まると、すぐに10分間のテスト勉強が始まりました。友人同士で問題を出し合う者、黙々と一人で暗記しようと試みる者、それぞれが真剣な時間を過ごしました。いよいよ、

テスト本番の時間になりました。担任は、生徒の緊張感を高めるため、あえて自分のクラスではなく、相手のクラスのテスト監督を担当。「はじめ」の合図で、一斉に生徒は問題を解き始めました。問題形式は歴史10点、理科II10点で、クラスごとにテストを作成したため、計40点の配点となりました。15分間の解答時間の後、生徒たちは相手クラスメートの答案用紙を採点しました。

生徒の感想としては、「うわー、コイツめっちゃできてるなあ」、「ああ、この問題の答えはこれだったのか」など。歓喜と落胆の声が入り混じる採点場となりました。採点結果は、クラス平均で0.5ポイント差で見事六組が勝利しました。

今回の取り組みを通して、勝利した六組担任の園田先生は「やったー」と喜ん

だ後、生徒たちは、最初はとまどっていたが、みんな真剣に取り組んでいるのが印象的だったと感想を語りました。また僅差で惜敗した五組担任の松田先生は「対抗戦にするとライバル心も芽生え、盛り上げることができた。」と話しました。今後は、「漢字や英単語でもやってみよう」、「採点もしやすいように工夫すれば、ホームルーム中に成績発表まででき、生徒らもその場で頑張りをたたえ合える」などの反省もありました。ここでできた雰囲気も十二月七日から始まる期末考査にいかしてほしいですね。



以下生徒の感想です。



私は問題をつくる時、できるだけ答えにくく、難しい問題を出そうと思いましたが、必死にノートを見て考えました。あまりに難しかったせいか、自分が解くときには忘れてしまうほどでした。相手のクラスの問題も私たちが作った問題と同様に難しい問題をつくっていて答えるのが大変でした。採点の時には、珍解答もあり、面白かったのですが、難しい問題もすらすら解いている人もいてびっくりしました。このテストを通じて問題作成の大変さを知ることができましたが、テストに向けていい勉強になりました。また、クラス間の交流もできてとても有意義なものになりました。

表紙の言葉

中一 信岡 駿良

「朝顔の 葉に秋近し かたつむり」
朝顔というと、ピンク・紫・青などに美しく染まり、花火のように咲き誇るという印象が強いかと思われまます。ほくは、最初は朝顔を元気に明るく仕上げようとしていました。

しかし、美術の先生に、「この俳句、いつ作られたと思う、どんな意味なのか。」そう訊かれ、もう一度俳句を詠み直すと、自分の考えの間違いに気づきました。「これはきっと、もう秋が近づこうとしている時、朝顔がしおれていく様子を見て、さみしいな、という気持ちを表しているのだろう。」

それから、葉に茶色を加えたりという工夫を凝らしながら作成したのが、この絵です。この絵は、俳句に込められた意味、想いなどを忠実に表した自信作です。

探究

授業報告



高二 探究II

○探究II

今までに研究してきた内容をパワーポイントのスライドや、ポスターにまとめました。発表会などで受けた助言を元にさらに研究を深め、論文に仕上げられています。さらに、英語での原稿・発表資料に取り組んでいるゼミもあります。10月より本校英語科の教員とTAのウサイリさん、アフィカさんが助言者として参加し、よりよい発表を目指して、生徒の頑張りをサポートしています。



療福祉大学の荒谷先生から教わり、工夫を重ねました。最終的にクラスの代表者を選び、12月18日に学年発表会を行う予定です。

探究I(高一)

☆先行研究調べ

2学期からゼミに分かれて先行研究調べに取り組みました。過去に先輩たちが取り組んだ研究内容について理解を深めた後、調べたことをポスターにまとめ、発表会を行いました。

☆ゼミ活動

11月からは、文系5、理系8の合計13のゼミに分かれて活動が始まりました。初回は担当教員やTAの紹介の後、各会場に分かれゼミ長を決め、まずは個人・グループ研究のテーマ決定に向けて取り組みを開始しました。どのような研究テーマに決まるのか楽しみです。



また、発表のマナーについて、川崎医

探究(中三)

○環境問題 プレゼンテーション

2学期は伝える力を養うことを目的に環境問題についてのプレゼンテーションを行います。地球温暖化や生物多様性、砂漠化など8つのテーマに分かれて、文献などから調査を行い、その結果は各自がパワーポイントを用いて図やグラフで発表します。全員が英語でのアブストラクト作成に取り組み、発表も一部英語で行います。

校内発表会

☆探究II 研究交流会

7月23日、探究IIの今までの研究成果をまとめたものを発表見学しました。まず、前半に文系ゼミがステージ発表を行い、その後文系、理系に分かれてポスター発表を行いました。



普段は理系と文系で分かれて活動しています。この発表会で初めてお互いの発表を聞き、とても刺激を受けたようでした。

☆探究II 校内課題研究合同発表会



11月20日、文系ゼミは日本語で、理系ゼミはすべてのポスターを英語でまとめ、理系ゼミは発表も出来る限り英語で行い、今までの練習の成果を発揮しました。

校外発表会

各分野の専門の先生方や海外からの留学生に助言者としてお越しいただき、内容についての感想やアドバイスをいただきました。

様々な発表会やコンテストに参加しました。

☆岡山大学 高校生大学院生研究と交流の会 ステージ発表「最優秀賞」受賞

(天文ゼミ)：萩谷昇平 磯崎日奈子 大熊由貴子 谷田瑞季

☆SSH生徒研究発表会「独立行政法人科学技術振興機構理事長賞」受賞

(天文ゼミ)：萩谷昇平 磯崎日奈子 大熊由貴子 谷田瑞季
☆マス・フェスタ(全国数学生徒研究発表会)(数学ゼミ)
☆坊っちゃん科学賞 研究論文コンテスト

「入賞」受賞(物理ゼミ)：高田淳平
「佳作(参加賞)」受賞(化学ゼミ)(生物ゼミ)(スポーツ科学ゼミ)
☆日本動物学会 高校生によるポスター発表 「優秀賞(参加賞)」受賞(生物ゼミ)

☆集まれ!理系女子 女子生徒による科学研究発表交流会 「奨励賞(参加賞)」受賞(生物ゼミ)(スポ科ゼミ)
☆高校化学ケラントコンテスト
一次審査通過↓ポスター発表(化学ゼミ)





メタセコイヤ

前校長佐藤元信氏
福武哲彦教育賞受賞！



前校長の佐藤元信先生が、第二十七回福武哲彦教育賞を受賞し、7月15日（月）に岡山プラザにて、表彰式と記念講演が行われました。佐藤先生は、岡山県内外の私立・公立学校に52年間勤務し、とりわけ金光学園には昭和53年からの33年間

にわたり奉職されました。校内では心の教育を重視した宗教的情操教育を展開し、探究クラスの設立による先進的な取り組みを行ったこと、校外では岡山県の私学協会の会長として広く岡山県の私学教育発展に尽力されたことが評価されま

した。

以下、佐藤先生のコメントです。「金光学園での33年間の教職生活を中心とした52年間の私の仕事にご褒美をくださったものと嬉しく思っています。改めて、私をお育てくださり、支えてくださったすべての先生方、保護者・生徒の皆様から御礼申します。来年2月末で78歳になり、父の年齢を2年も越してしまします。先のこととはわかりませんが、大いなるものに生かされて生きる今日のいのちを大切に、金光教の信仰を糧として、少しでも周囲のお役に立つ余生でありたいと願っています。金光学園の発展と生徒の皆様のご活躍を日々祈っています。」佐藤先生、受賞おめでとうございます。今後ますますのご活躍をお祈りしています。

岡辺雅子先生 私学功労者表彰！

7月29日（月）



に高梁国際ホテルで行われた「岡山県私学教育振興大会」で、岡辺雅子先生が私学功労者として表彰されました。岡辺先生は、県下の私立学校の教職員として永年に渡り職務に精励されたことがたたえられて今回の表彰となりました。

以下、岡辺先生のコメントです。「今回の受賞を心から感謝し、これを励みに一層金光学園教育に力を尽くしていきたいと思えます」

今後のますますのご活躍をお祈りしています。本当におめでとうございます。

天文部・天文ゼミ快挙！

天文部・天文ゼミ（高二萩谷昇平くん・磯崎日菜子さん・大熊由起子さん・谷田瑞季さん）が「木星の衛星イオと光速度レーダー法の弱点が分かった」の研究成

果を発表し、多くの表彰を受けました。

7月31日（水）に岡山大学創立五十周年記念館で行われた「高校生大学院生研究と交流の会」において、ステージ発表で「最優秀賞」を受賞しました。また、8月7日（水）・8日（木）パシフィコ横浜で行われたSSHの全国大会である「SSH生徒課題研究発表会」に参加し、「科学技術振興機構理事賞」を受賞しました。第1位の文部科学大臣賞に次ぐ賞ということで、大変光栄なことです。以下、発表者のコメントです。



岡山大学・パシフィコ横浜参加

萩谷 昇平

私たちは岡山大学の研究発表で最優秀賞を、横浜の全国生徒研究発表会で科学技術振興機構理事賞を受賞することができました。岡山大学では数百人、横浜では数千人もの人々の前での発表で非常

に緊張しました。しかし全力で発表を行い、結果として賞を勝ちとることでできたことで、自分たちがこれまで行ってきた研究に自信を持つことができました。しかし、唯一の心残りは、岡山大学の表彰式の際に僕の名前を間違えられた時に、訂正することができなかったことです。今後、私が研究活動を継続し、その成果を発表する際には、今回得た知識や多くの方々からいただいたアドバイスを活用し、自己を高めていきたいと考えています。

大熊 由希子

私達天文ゼミは、8月に行われたSSH全国大会に行ってきました。最初ボスター発表をした後、プレゼンテーションを行いました。会場はとても広く、今からここで発表するかと思うとても緊張しましたが、練習通りに伝えたいことや言いたいことをきちんとすることができたので、いい経験をしました。とにかく、先生方や私達も一緒になって取り組んだ結果がこのように評価されてとても嬉しかったです。

第28回「WE LOVE ンボ」絵画コンクールにて、環境大臣賞、受賞！

中学生の夏休み課題の一つで応募した、「WE LOVE ンボ」絵画コンクールにて、金光学園中学校が、大賞の一つである「環境大臣賞」を受賞しました。



今年度は全国から一七六、五一八点の応募があった大きなコンクールですが、学校賞に選ばれるのはたったの5校です。その中の1校として選ばれました。このコンクール作品には特に力作が揃い、本校からは17点出品しました。意欲を持って作品に取り組み姿が評価され、今後の励みになりました。

表彰式には、金光学園中学校を代表して図書課長の服部が出席させていただきました。

表彰後、株式会社トンボの社長（高26回近藤知之氏）にお目にかかり歓談させていただきました。

活躍おめでとう

《中学放送部》

「第2回 晴れの国おかやま映像コンテスト」特別賞受賞

植田七菜子

私たち中学放送部は「第2回晴れの国おかやま映像コンテスト」の「岡山わが町自慢部門」へ、金光町の植木をテーマにCMを制作し、審査員特別賞を頂きました。最初は、「本当に作品を作り上げられるのか」と不安に思っていました。なかなか構成やイメージがわかず、戸惑っていました。けれど、これではいけ



ないと思い、部員と知恵を出し合いながらストーリーを考え、金光町植木協同組合代表理事の古川秀昭さんへ取材に行きました。取材をする中で、金光町の植木の歴史や植木を育てる楽しさや難しさを学びました。そして、締め切り間近で無事に完成させることができました。みんなで協力したからこそ、できた作品だと思っています。賞を取ることができ、本当に嬉しく誇りに思います。

改めて、顧問の先生、取材を受けて下さった古川さんにお礼を申し上げます。

《高校放送部》

秋季放送コンテストに参加して

田辺 恭子

十一月二十四日に第三十八回岡山県高等学校秋季放送コンテストが開催されました。私は朗読部門で一位をいただき、その結果、来年開催される全国大会への

出場が決定しました。全国大会へ繋がる大会には今まで何度か参加してきましたが、なかなか上位に入賞することができませんでした。今回の大会では前回の反省を生かして、ひとりよがりの朗読にならないように意識して取り組みました。私は今回の課題本を選ぶとき、自分の声質に合っているから、という理由で芥川龍之介の『地獄変』を選びました。しかし、近代の小説は言葉が難しく、どのように読めば書かれている光景をうまく伝えることができるのか悩みました。今までは私が感じていましたが、読んでいまいましたが、それではいけないと思い、作品を何度か読んで、芥川や『地獄変』



に関する論文などにも目を通しました。登場人物の人物像や作品の背景を深く理解したおかげで、自然な朗読になったのではないかと思います。今後も今回の経験を生かして、より豊かな表現ができるように頑張ります。最後に部活の仲間、そして顧問の先生方ありがとうございます。

《高校卓球部》

2年ぶり2度目の日本一

井上 全悠

11月16、17日に大阪で行われた第5回国際クラス別肢体不自由者卓球選手権大会に出場しました。結果はシングルス(クラスA)で優勝、ダブルス(クラス6)で3位でした。シングルスは2年ぶりの優勝、ダブルスは初のメダル獲得でとても嬉しく思っています。



この大会は来年のナショナルチーム入り、国際大会出場の権利が関わっているため、とても緊張しました。しかし、そのような中でこのような良い結果を残すことができたのは、先月、中国で行われたアジア選手権で個人戦と団体戦で予選敗退という悔しい思いをしたからだと思っています。この大舞台での経験を今後もしっかりと活かしていきたいと思っています。

今大会は苦しい試合が多くありました。その中でも準決勝はセットカウント0対2で負けているところから逆転し、3対2で勝利することができました。私はこの試合を通して「諦めない」ことの大切さを学びました。どのような窮地に立たされても、集中力を切らさずに戦い続けられ、逆転することができたことを改めて実感しました。12月には、今年最後の国際大会があるので、そこでも良い結果が残せるように頑張ります。

最後になりましたが、ここまで多くのことを教えてくださった先生方、周りの方々、そして日々支えて下さる家族に感謝しています。本当にありがとうございます。今後とも応援を宜しくお願いします。

《写真部》

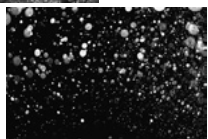
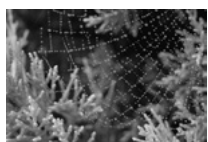
第61回ニッコールフォトコンテスト

入賞 高2高田淳平君

今年もモノクローム・カラー・ネイチャー・U-131各部へ総合計47,832点にのぼる作品が寄せられた。彼はU-131の部門へ出品。画題は「緑の雨」。第四部門には7,032点の中、厳しい審査を経て入選となりました。受賞おめでとうございます。今後の活躍をお祈りします。

高田 淳平

中学三年の時にカメラを買って以来、写真技法を学びながら身の回りの様々なるものを撮影してきたが、自分の実力がど



の程度あるのか知りたかった。

今回賞を頂いた作品は、三枚組でいずれも身近な風景を被写体としている。雨を真下から撮影した一枚が最も気に入っている。落ちてくる雨滴にストロボを当てると光を反射して極彩色に輝くなど、実際に撮影してみるまでは想像もつかなかった。斬新な視点が評価されたのだと思っている。

最後に、お忙しい中応募にご協力頂いた顧問の安田先生には感謝いたします。

《中学柔道部》

中国大会に出場して

江草ひな子

私は8月6日に鳥根県で行われた中国大会に出場しました。中国大会に出場するのはこれで2回目です。1度目は団体戦だったので心強かったけれど、今回は個人戦だったので心細く感じました。私はこの中国大会で沢山の課題を得ることができました。塚田佳恵先生が試合前に、金光様にワンチャンスをくださいとお願いで済ませたいので、私もお願いしていました。その結果、初戦は得意技の



第29回中国中学柔道選手権大会

内股で一本を取ることができ自信ができました。しかし2回戦で負けてしまいました。始めは攻めることができていたけど時間が経つにつれ体力がなくなり、県大会の決勝戦と同じ負け方をしてしまいました。2回も同じ負け方をすると自分にはだちを感じました。試合が終わってから道場の先生にはカップラーメンかと言われました。1分30秒はまだ麺が固いけど、時間が経つにつれて柔らかくもろくなる私のスタミナと同じだということでした。私はあらためて自分の体力の無さを痛感させられました。これから体力をつけ日々の練習を頑張ってさらに上の試合を目指します。

最後にいつも指導してくださる先生方・先輩・後輩、本当に感謝しています。

また私を支えてくれる両親・友達がいるから今の私がいると思います。本当にありがとうございます。

《中学野球部》

全国大会に出場して

岩崎 真矢

僕たち中学野球部は8月17日から20日にかけて愛知県豊橋市で行われた全国中学校軟式野球大会に出場しました。

僕たちは、昨秋の県大会では1回戦で吉備中学校と対戦し、2対1で敗れました。この敗戦から多くのことを学び、新しい目標や自分たちにとって必要な練習などを見つけることができました。そして、中学3年生になり、挑んだ最後の夏。県予選の備前西地区大会は代表決定戦に苦戦しましたが、なんとか勝ち上がることでできました。県大会では、1回戦から優勝候補の学校と対戦して勝つことができた僕たちは、その勢いのまま県大会を初優勝で終えることができました。

8月7日から鳥根県で行われた中国大会では、準決勝で鳥根2位の江津中学校に勝ち、全国大会への出場権を獲得し

ました。今までやってきたことが結果に出てとてもうれしかったです。全国大会では、2回戦で負けてしま

い、全国ベスト16という結果には少し悔いは残りますが、本場にここまでこれて良かったと思います。ここまでくる過程で、僕たちは多くのことを教えてもら



い、得ることができました。練習をしていく中で、礼儀や野球以外の奥の大切なことも先生方から教わりました。

昨年の夏から新チームに変わり、僕たちは「一を大切に」という合言葉を掲げました。この言葉は僕たちをここまで育

てくれた大切な言葉です。高校に入学すると、今のメンバーはそれぞれが違う目標に向かっていくのですが、この言葉を忘れずに頑張っていきたいと思

最後にになりましたが、ここまで指導してくださった先生方、応援をしてくださった方々、そして支えてくださった両親に感謝しながら、日々を歩んでいこうと思います。本当にありがとうございます。

《将棋部》

「第37回全国総合文化祭将棋部門」に出場して

羽仁 豊

僕は8月に長崎県で行われた「第37回全国総合文化祭将棋部門」の男子個人に出場し、3位入賞をしました。昨年出場した時は、2勝2敗で予選敗退だったので、「今年は必ず予選突破し、入賞する」と強い意志を胸に大会へ臨みました。予選は初戦を落としましたが、残りの3局は苦しい将棋を逆転したりして、何とか予選突破することができました。決勝



トーナメントでは、決勝トーナメント1回戦で大激戦を制することができ、その勢いでベスト4まで残ることができました。しかし、その日の夜、準決勝という大舞台で勝てるか不安になり、体調を崩してしまいました。準決勝直前に体調が良くなりましたが、相手がやはり実力的にも強く、最後は反則であっけなく負けしてしまいました。今回は決意通り入賞することができました。しかし、精神的な弱さ、技術的な甘さという課題を突きつけられました。次の全国大会では、その課題を克服し、必ず全国優勝をしたいです。また、大好きな将棋に打ちこめるとい環境、周りの人々の助けに感謝をして、これからも日々精進していこうと思います。



【1日目】 東京大学

◇古い建物や歴史に出てきた建物があって感動しました。敷地も広くて食堂に行くだけでも大変でした。

◇有名な赤門をくぐって感動した。敷地内に森林があったことに驚いた。

◇校舎や雰囲気から東京大学の歴史の深さを感じた。

◇（食堂にて）日本トップの学生さんと同じものを食べていると思うと、なんだか嬉しかった。

◇有名な安田大講堂、赤門などを見学し、さらに東大に興味が増えました。

早稲田大学

◇早稲田大学は、本当に大学なのか疑うくらい大きくて広くて、きれいだっただ。新築の家の香りもした。こんなところで学び、のびのびと学生生活を送るなんて、きつと充実しているだろうなと感じた。

◇学内の掲示板に課題などの連絡事項が掲載しており、全部自分で確認してレポートの提出の締め切りを守るということを初めて知り、中学生の自分は恵まれているなと感じた。

◇夏休みに他の大学にもオープンキャンパスに行きましたが、格段に大きくて設備も充実していた。

8月5日（月）・6日（火）に、中3生11人、高1生11人の計22人で、東京研修へ行きました。

1日目は本校卒業生の山本大介くん（東京大生）・間賀友里恵さん（早稲田大生）の案内で、東京大学と早稲田大学へ行きました。広い大学構内の施設・学食・図書館など少しばかりですが、大学生の気分を味わうことができました。

2日目は、本校卒業生で衆議院議員の柚木道義議員の案内で、国会議事堂内を見学しました。議員食堂・本会議場・議長室・赤じゅうたんなど、普段入ることのできない場所へ行くことができました。

この2日間で、将来のこと、日本の政治のことなど、様々なことを学ぶことができました。



【2日目】

国会見学



◇テレビでしか見たことがなかったから、感動した。赤いじゅうたんが4キロにわたって敷き詰められていると聞いて驚いた。

◇国会議員の柚木さんとお会いすることができて嬉しかった。議事堂内を歩いていると、自民党の石破幹事長もすれ違い、とてもびっくりした!!

◇国会周辺の警備の多さにびっくりしたが、「総理がいるときは、もっと多い」と案内してくださった方がおっしゃっていて、さらにびっくりした。

◇衆議院本会議場では、実際に席に座って見学をしました。ここで本会議が開かれているのだと思うと、なんだか身の引き締まる思いがしました。

◇議員さんの部屋に入れてもらったり、議長室に入って議長や副議長の椅子に座ったり、衆議院本会議場に入れたり、議員食堂でカツカレーを食べたり、楽しかったし、感動しました。できるならば、もう一度国会議事堂に正面から入れるよ

うに勉強を頑張りたい。

◇研修中にたくさんの方の見学や感動をしたが、中でも一番思い出深いのが国会議事堂だ。私たちの先輩である柚木さんに会い、そのおかげで、普通の人では見せてもらえない所を見せてもらったり、写真を撮らせてもらったり、とても貴重な体験をした。

全体を通して

◇とても暑く長い道のりでしたが、その分得たこと全てが、とても貴重で素晴らしいものでした。できれば、ぜひ来年も行きたいと思いました。そして、もっとたくさんの方に参加してもらって、東京研修だからこ経験できることをたくさんしてもらいたいです。

◇同じ日本なのに、岡山と違うことをたくさん発見できました。東京には東京の、岡山・広島には岡山・広島の良さがあることもわかった。

◇議員会館のビルからの眺めは、政治の中心である建物が一望できて、とてもよかったです。また、国会図書館では日本全国の新聞が棚に置かれ、雑誌などすべての

本が置かれていて、感動しました。

◇今回、初めて大学という場所に行き、中学・高校と雰囲気違ってすごく大人な場所のような気がした。自分がこんな雰囲気のところに行くことができるのか、その為に何が必要かということをおためて考え直す機会になった。

◇この2日間で普段の生活にはない新しい事が体験できたと思います。この夏休みにしかできない貴重な体験をすることで自分の視野が広がったのではないのでしょうか。初めての東京は交通機関の乗り継ぎや移動などが大変でしたが、とても楽しかったです。

◇私の将来の夢を叶えるためには、大学ではなく専門学校を選ばなくてはならない。そのため、大学というところに行くのはこれが最初で最後かもしれないと思うと、自分がやりたい事がある大学を探すのも悪くない気がした。今まで自分が大学にいるということが想像できなかったが、少し想像できるようになった。

SSH宿泊研修記

【東京大学・SSH生徒研究発表会見学】

日 程…8月6日～8日

参加人数…13名(中3～高1)

【内容】

8月6日

午前…移動(岡山～東京)

午後…東京大学研修(駒場キャンパス)

講義「筋ジストロフィーをなおす」

松田教授

講演「高校生に伝えたいこと」

東京大学学部生・大学院生

研修終了後、横浜へ移動



8月7日

終日…パシフィコ横浜

ポスター発表見学

本校からは、天文部天文ゼミの

「木星の衛星イオと光速度」

レーマー法の弱点がわかった

イオの公転周期変動を確認」

を出品、物理・地学分野の代表と

して翌日の口頭発表校に選ばれた。

8月8日

午前…パシフィコ横浜

口頭発表見学、ポスター発表見学

※本校代表は科学技術振興機構理

事長賞を受賞

午後…移動(横浜～岡山)

本研修においては、参加生徒は講義・実習に熱心に取り組むことができた。講義内容はやや難しかったようだが、大学生・大学院生の講演及び懇談会では大学生活・高校生の時の学習への取組や現在の研究活動への質問等を行い、多くのことを吸収しようという姿勢が見られた。また、SSH生徒研究発表会見学においては本校ポスター発表の見学はもちろん、他校のポスター発表についても興味



【SSH夏季宿泊研修】

日 程…8月19日(月)～21日(水)

研修先…京大物理学部、工学部、総合博物館等

参加人数…36名

中1 6名(男5、女1)
中2 8名(男5、女3)
中3 15名(男10、女5)
高1 3名(男1、女2)
高2 4名(男4)

【内容】

1日目

午前…金光～京都(移動)

午後…理学部(吉田キャンパス)

理学部…依光 准教授

夜…国際時計反応(実習)及び講義

工学部…金 准教授

留学生 8名参加(男6、女2)

2日目

終日…工学部(桂キャンパス)

共通

9:00～10:00 講義(橋梁について)

白土 教授

グループ①工学部地球工学科

白土 教授・八木 准教授

グループ②工学部機械工学科

榎木 教授・中西 講師・根 助教・堀口 助教

10:15～12:00 ペーパーブリッジ作成
12:00～13:00 昼食及び乾燥時間
13:00～14:00 ペーパーブリッジコンテスト

グループ②工学部機械工学科

榎木 教授・中西 講師・

根 助教・堀口 助教

10:00～11:00 講義

11:15～12:45 実習及び体験

「レスキューロボットの遠隔操縦」

「体験ヘリコプターの飛行原理とヘリ

模型を使った遠隔操縦体験」

「アイマークレコーダを用いた注視点

計測実験」

共通

14:00～15:00 桂キャンパス見学

八木 准教授

(宿舎に帰ったのち夕食後発表準備等

を行う)

夜…宿泊施設において研修成果発表会

(グループor個人)

3日目

午前…京都大学(吉田キャンパス)見学

総合博物館、iPS細胞研究所等を見学

午後…京都～金光(移動)

ある内容のもの、おもしろそうだと思っ
たものについて積極的にポスター発表の
見学を行った。パシフィコ横浜の巨大な
ホールの舞台で堂々と発表する先輩の姿
に触れ、参加生徒の多くは、来年度・再
来年度のポスター発表にぜひ自分が参加
したいとの意欲を示していた。



①一日目の講義・実習を受けて

一日目は理学部で依光先生の講義・実習を受けました。実習ではヨウ素時計反応の実験をし、初めての体験をしました。試料溶液の濃度が薄まるにつれ色が変わり始める時間は遅くなっていったが、規則的に時間が遅くなっていったので驚きました。最後に研究するところを見学しましたが、とてもわくわくしました。

②二日目の講義・実習を受けて

二日目は工学部で白土先生に橋梁などの講義を聴きました。風・振動のことをいれておかないと、構造が丈夫でも橋が



倒壊する危険性があるのだとわかり、不思議でした。午後からは実習・見学をし、僕は「ヘリコプターの飛行原理とヘリ模型を使った遠隔操縦体験」にきました。そこは入ったとたん目が釘付けになりました。農業散布用のヘリコプターが実室内にあり、大きさに圧倒されました。こんな大きなものがラジコンで操縦できるなんて、すごいと思いました。一方で危険なのではないのだろうかと思いましたが、

③国際交流を行って

初めての国際交流でしたが、最初とても緊張しました。今まで外国の人と話す機会がなかったので、英語もきちんくなってしまうましたが、なんとか話せま



した。時間がたつにつれて緊張もほぐれてゆき、片言の英語で親交も深くなっていきました。後半になり希望者・指定者がなにかしらすることになり、萩谷先輩と僕とで企画を進めていきました。最初中学三年生の先輩が歌を歌った後、みんなが続いていきました。しまいには先生も踊ったり・・・僕は車掌さんの真似をしました。みんなに大うけで自分も

うれしかったです。後で別の留学生に「もう一回」といわれ、やったりもしました。あつという間に過ぎた、とても楽しい二時間でした。

④合宿を通して得たもの

今回の合宿でいろいろな講義を聴く事で僕は自分の視野を広げることができたと思います。自分の興味があまりなかった分野にも興味を持つことができました。また、自分の好きな分野にも強い関心を抱きました。将来自分の夢に向かって頑張っていきたいです。「~したい」ではどこにもいけないと先生が言っていたので、「~にいく」「~する」に意識を変えていきたいです。

⑤まとめ・感想

二度目の大学訪問でしたが、規模が全然違って圧倒されました。普段中学校では学べない事がすべて、行ってよかったと思っています。自身の夢は生物学者なので、京大に見事合格し、夢に向かって突き進んでいきたいです。

【大阪大学宿泊研修報告】

十一月二十四日(日)に開催される「サイエンスチャレンジ岡山2013」に、学校の代表として出場する十五人の選手が大阪大学で宿泊研修を行いました。

10月4日(金)

移動日。予定通り、16:50に学校を出発。校長先生の激励をいただき、士気が高まる。

玉島ICから山陽道に入ったが、その直後から、英語の教員2人によるマンツーマンでの英会話指導が始まる。今回は国際交流会で求められているレベルが高いため、事前の指導をしっかり行った。その最終仕上げだった。

西宮名塩SAで夕食。思い思いのメニューをいただいていた。ちなみに、さんなラーメンが名物のようだった。

10月5日(土)

8:15にホテルを出発。8:40に大阪大学吹田キャンパス工学部A1棟に到着。予定通り九時から西嶋茂宏教授のあいさつ。その後、秋山庸子先生から燃料電池に関する講義。基礎的な理論を教えてください。備長炭電池を作る基本的な構

想ができたと思う。

場所をPJ教室に移動して、備長炭電池の実習。驚いたのは、お手伝いの学部生・院生が十名以上もいてくださったこと。休日にも関わらず西嶋研究室がほぼ総出で金光学園のために動いてくださっているということに感動すら覚えた。

備長炭電池の実習では、最初にグループに分かれて計画を立て、その後、実際に作成を行った。積極的に相談をしながら取り組むグループが多く、良い雰囲気だった。完成後、テスターを使って電圧と電流を計測してグループ間で競った。先生チームも作成したが、健闘むなしく最下位だった。

最後に、それぞれのグループが作成にあたり工夫したことをウェブカメラからスクリーンに投影して発表し、それと数値を合わせて、作成にあたってのポイントなどを検討した。

昼食に入る前に、ほつま同窓会近畿支部から松本直美さん、他3名の方が来てくださり、たこ焼き等の差し入れをいただいた。ここでも金光学園という学校の素晴らしさと、OB・OGの方のあたたかさを感じることができた。



8月19日(月)
16時30頃に春川女子高等学校に到着。小高い丘の上にそびえる新校舎に「まるで大学みたい」「きれい！大きい！」とそれまで緊張気味だった学園生も大興奮。その後歓迎式が行われ、ホストファミリーと初対面。温かい笑顔で迎えられる、一同も嬉しそうでした。ホストファミリー

8月19日(月)
今年度は学園生が春川女子高等学校を訪問しました。こちらは夏休み中での訪問でしたが、春川女子高等学校では授業の真っ最中。熱心に学習に取り組む姿に感動し、笑顔あふれるあたたかいおもてなしに学園生15名は感激しつ放しでした。まずは5日間の交流内容を簡単に紹介いたします。

8月20日(火)
8時15分の職員朝礼に参加させて頂き、皆様にご挨拶。その後新校舎を案内してもらいました。充実した設備内容には「すごい」の一言のみ。その後英語と体育の授業に参加。体育ではダンスを一緒に踊り、よい汗をかきました。昼食後はホストシスターのいる授業を体験。その後学園生が集まって春川女子高等学校の文化祭の展示用模造紙を作成しました。15名が3グループに分かれて、日本についているいろいろな角度から紹介した渾身の模造紙が出来上がりました。また、ペンパルとの交流もあり、盛り

8/19(月)
~23(金)

韓国・春川女子高等学校 第4回姉妹校交流

あたたかな「おもてなし」に感激

行ってきました！

ミリー全員との記念写真を撮った後それぞれの家に帰りました。

8月20日(火)
8時15分の職員朝礼に参加させて頂き、皆様にご挨拶。その後新校舎を案内してもらいました。充実した設備内容には「すごい」の一言のみ。その後英語と体育の授業に参加。体育ではダンスを一緒に踊り、よい汗をかきました。

昼食後はホストシスターのいる授業を体験。その後学園生が集まって春川女子高等学校の文化祭の展示用模造紙を作成しました。15名が3グループに分かれて、日本についているいろいろな角度から紹介した渾身の模造紙が出来上がりました。また、ペンパルとの交流もあり、盛り

昼食をはさんで、午後はペーパーリーグの講義からスタートした。元鴻池組の小林育夫先生の講義を受けた後、午前中と同様、PJ教室に移動して実習を行った。備長炭電池の時と同様、まずはグループで計画を立てて、ウエブカメラでプレゼンした後、実際の制作に入った。ここでは、大阪大学の学部生・院生もチームを作り制作に参加した。「高校生なんかには負けてたまるか」という言葉も聞かれ、こういうことを楽しんで出来ることも「さすが」と感じさせられた。休憩をはさんで17:00からは国際交流会。四人の留学生の方がそれぞれのグループでチェアマンをしてくださり、「国際交流において重要なこと」というテーマでディスカッションをした。約一時間ディスカッションした後、休憩をはさんでプレゼンに移った。グループ全員が前に立ち、序論・本論・結論を分担して発表するというものだった。プリントは持っているのだが、それを見て話したらダメというルールで進み、自分の意見をいかに伝えるかという部分がとても重視されていて、懸命に頑張る生徒が見られた。それぞれのグループの発表

の最後には、留学生自身の意見を聞くこともでき、自分たちだけでは気づかないことにも気づかされ、興味深かった。10月6日(日) 8:15にホテル出発。神戸に移動した。予定よりも早く、兵庫県立人と自然の博物館に到着。岩石の成因についての講義を受けた後、午後の植物同定の講師である小館先生から事前課題が出された。写真をもとに、指定された植物の葉を探してくるというものと、植物の名が与えられ、それを図鑑で調べて葉を特定し、それを探してくるという二つの課題だった。14:00から小館先生による植物同定の講義。まずは事前課題の答え合わせから



14:00から小館先生による植物同定の講義。まずは事前課題の答え合わせから

始まった。驚いたことに多くのグループがほぼ全問正解だった。これには先生も驚かれていた。その後、葉の見分け方のポイントをお話しいただいた。とてもおもしろく、生徒も食い入るように話を聞いていた。その後、「競技とは少し外れるけど」とおっしゃりながら、植物の不思議についてファイバースコープを使いながら話していただいた。これもとてもおもしろく、あつという間の一時間だった。予定より30分遅れの15:30に博物館を出発し、途中龍野西SAで休憩を取り18:00に学校へ到着した。

上がりました。

そして今日のメインは「夜自(ヤジャ)」体験。春川女子高等学校では19時半〜21時まで、ほぼ全校生徒が教室で自習を行います。静寂と緊張感にあふれた時間を一緒に過ごしました。



8月21日(水)

今日は観光の日。まずは春川からソウルに移動。最初はバスの中も静かな時間が多かったのですが、さすがに3日目となると、おしゃべりもはずみ、車内はとっもにぎやかに。まずは南山国楽堂に行き、韓国の礼節体験を行いました。伝統衣装チマチョゴリに着替え、茶道体験。カメラのフラッシュが光ります。

その後、景福宮へ。ちょうど門番の交替時間と見学時間が重なり、厳粛な交代式が行われているのを見る事ができました。

た。ホストシスター達は事前に観光地について色々学習してきてくれており、話もはずんでいたようです。

8月22日(木)

今日は一日のほとんどを、韓国民俗村で過ごしました。ここは韓国の伝統的な暮らしが広い敷地内に再現されており、楽しく歴史を振り返ることができるところです。

特に昔の婚礼の様子を再現するイベントには皆つめかけ興味深く見学していました。



ここでは昼食も各自でとることになっていきます。ホストシスターとも英語、韓国語、日本語を交え、より深いコミュニケーションができるようになりまし

8月23日(金)

あつという間に最終日。9時から11時まで送別会が行われました。ホストシ

ターと学園生がそれぞれ一言ずつ挨拶をしました。皆涙、涙のお別れでしたが、たくさんのお土産と思いい出を胸に帰国の途につきました。

最後は春川女子高等学校の校長先生の粹なほからいで、本来ならホストシスターとは学校でお別れだったのですが、仁川国際空港まで送別してよいということになり、空港までのバスの中で最後のお別れができました。

来年は私達が春川の皆さんを受け入れる番ですね。春川ではご迷惑をかけたこともありましたが、いつも笑顔で優しく受け入れて



くれました。その心をぜひ来年、お返ししたいと思います。

春川女子高等学校の皆さんには、本当にお世話になりました。ありがとうございます。

生徒の感想文一部をご紹介します。

中三 佐々木華歩

私が英語も韓国語もしゃべることができないので、彼女はずっと日本語で話してくれました。一緒にいる時は荷物を持ってくれたり、「体調悪くない?」と声をかけてくれたり、ずっと気にかけてくれました。

高一 上川 真奈

韓国では一般的な夜自。みんなが静かに勉強している姿は、同世代とは思えない集中力だった。少しでもナヨンたちに近づけるように、文武両道で頑張りたい。

高一 丸山 飛佳

1日目は言葉が通じず、不安でいっぱい、正直「帰りたい」と思っています。でも、言葉が通じた時の喜びと、春

川の人たちと話せた時の喜びは、とても大きく、「もっと話したい」と思うようになりました。

高二 神原 理沙

私にとってこの5日間は宝物です。5日間の異文化の地での生活はとても良い経験になりました。人との出会いや別れの大切さを改めて感じる事ができた、素晴らしい交流でした。そして、言葉という壁があっても、自分がどれだけ話したいか、伝えたいか、という気持ち次第で道は変わると感じました。



高二 三海紗也加

私は独学で少しだけ韓国語を勉強していたので、韓国語で話すようにしていました。会話の中で韓国人の人から「上手い!」と言われたり、コミュニケーションがとれた時には本当に嬉しかった。「もっと頑張ろう」と思えました。

高一 加藤岡雅弥

現地でホームステイを体験してみても感じたことは、自分たちは勉強時間が足りていないということです。春川女子高校の1年生は学校が終わるのが9時、2年生は10時、3年生は11時で、その後塾へ通う生徒ももちろんいます。塾から家へ帰ってくるのが夜中の1時になる生徒もいるそうです。この話を聞いて、とても驚きました。僕は普段からけっこう勉強している方だと思っていましたが、この実態を知って「自分は全然できていないな」と思いました。帰国したらもっと勉強しなくてはならないと感じさせられる貴重な体験でした。

高二 勝野 南

この作文のタイトルを「海の向こうにもあなたを想ってくれている人がいる」という塚本先生が言われた言葉にしたのは、私自身がこの言葉を一生忘れたくないと思ったからです。今日、日本と韓国の間には様々な問題があります。しかし、目と目を見て心が通じ合えば、きっと仲良くなれるはずです。そう言えるのは、まだ16歳と15歳である高校生の私たちにできたからです。

英語が分かった！使えた！

楽しんだ！！

7月30日～8月6日

韓国・仁川英語村研修

入り混じった気持ちになりました。それぐらいこの研修は、自分の将来にとっても役に立つと実感しました。また、今の時代は何をするにも英語力が問われる時代。私に研修への切符を与えてくれた両親、学校の先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

2回目となる韓国・仁川広域市英語村研修。
今年度は21名が参加しました。様々なプログラムを通じて、「英語が好きになった」「自分の英語が通じた」「ネイティブの先生の言っていることが分かるようになった」など、英語力の向上を実感していました。以下に参加者の感想文を掲載します。来年も夏休みに実施する予定です。 Shall we go to ICEV next summer!

仁川英語村研修に参加して

中二 西川 華

私がこの研修に参加した理由は母親に勧められたからでした。しかし、この研修が終わってみると、なぜ自分から「行きたい」と言えなかったのだろうかという後悔と、行けてよかったという嬉しさが

もできたと思います。
今回の研修をステップにし、これからも英語の勉強を頑張っていけたらなと思いました。そして、もともと本場の



英語と触れ合い、今後の自分の糧にしていけたらなと思います。

英語村研修を終えて

中二 小出 尚寛

僕はこの英語村研修を終えて、出来るようになったことや感じたことなどが5つ程度あります。

一つ目は、「聞く」ことがいかに重要かということ。英語村の授業のほとんどは、モノを作ったりゲームをしたりという内容でした。「書く」ことがほとんどありませんでしたが、日常会話の仕方などが身につきました。僕自身、聞くより書いた方が効果があると思っていたので驚きました。

二つ目に、必ずしも会話の中で完璧な英文が使われているとは限らないことに気がつきました。英語の教科書には、主語、述語など、いろいろな単語で一つの英文が作られています。実際に現地に行ってみると、一つの単語だけで会話している場面もよくありました。そのような会話の中で戸惑わないように、瞬発力も必要だと気づきました。

三つ目は、出来るようになったことで

す。今まで英語で何かを聞かれると戸惑ってしまい、何をすることも出来なくなっていました。英語村研修の後半には、少しは自分の意思を話せるようになりました。これは自分にとって、一番重要な成長だったと思います。英語圏で生きていくためには、必ず何か相手とコミュニケーションをとらなければいけません。そのためにも、自分の意思を伝えるということは、とても重要なことだ

と思いました。

四つ目も、同じくコミュニケーションについてのことですが、ロッテワールドで英語でのホットドッグの注文が出来ました。初めての英語での注文でしたが、注文一回目で正確に聞き取ってくれて、ブレンホットドッグと飲み物のセットを無事買うことが出来ました。初めて自分の英語が他人に伝わったので、とても嬉しかったです。

五つ目は、英語についての成長ではなく、自分自身の成長です。ほんの少しの成長ではありますが、自分の慣れないところで暮らしたり、身の回りのことを全て自分でやったりと、今までに経験した機会が少ないことについても出来るようになってきました。いつか大人になって、身の周りやそれ以外の責任を自分が持つとかが来ると思います。その時のためにも今回の経験は大事だったと思います。

以上の五つのこともそうですが、今回の英語村での思い出や最後に英語村の先生が送り出してくれた姿は、一生忘れられない思い出になりました。とても良い経験でした。ありがとうございました。



仁川英語村研修を終えて

中三 目黒 達之

僕が今回の仁川英語村で得た経験は宝物と言ってもよいくらい、貴重なものになりました。毎日楽しい授業を受けたり、韓国の伝統的料理や観光に英語を使い、触れ合うことができました。このような経験の一つ一つが、僕達には普段することができない経験となりました。

その中でも特に食事の時やフリートタイムの時間に、色々な国の友達と触れ合えました。英語村にいる韓国の友達や先生達と英語だけを使ってコミュニケーションをとりました。他にも様々な場面で、積極的に英語を使うことができました。先生に何か質問する時、食堂で韓国のりをくれるように頼む時、ロッテワールドで乗り物の場所を聞く時、それぞれ使う場面が違います。でも、いつも英語の大切さや英語を少しでも使えることの幸せをかみしめながら使えました。英語を使えることで沢山のコミュニケーションをとれるし、笑ったり意見を交換したりと、色々なことができます。こうすることで自分の英語のスキルや、友達や外国人とコミュニケーションのようなものが、大

きくなったと実感しています。そして本当に感動しています。

また、今回のこの感動のおかげで英語への想いも強くなったし、もっともっと上達して、もっと沢山の友達とコミュニケーションをとれるようになりたいとも思いました。

最後に、今回このような素晴らしい経験ができたのも、多くの人の支えがあったからです。まず、引率してくださった先生方。二人はいつも温かくサポートしてくれました。次に、英語村の先生達。僕のおぼつかない英語を一生懸命理解してくれたので、どんな積極的に話すことができました。そして、僕にこの韓国での素晴らしい英語研修のチャンスくれた学校の先生方や両親。今年の夏は本当に充実した一週間を過ごすことができました。本当にありがとうございます。

これからもこの感動と感謝の気持ちを忘れず、自分の英語力を高めたいです。そして、もっともっと色々な人とコミュニケーションをとれるようになりたいです。



I could get nice experiences through this camp. I don't forget them. And I want to improve my English skills. Thank you.



嫌いだっただ英語が：

高一 黒川 綾乃

私は英語が嫌いだっただ。だから、この研修をきっかけに英語が少しでも好きになれたらと思って、この研修行きを決めた。

初めての海外。期間は一週間。こんなに長く家族と離れるのは初めてだった。不安でいっぱいだったけど、英語を好きになって帰ってくるんだという決意を胸に、韓国に向けて出発した。

空港から英語村に向けてのバスの中、これからどんな生活が待っているのだろうと、期待と不安が胸がドキドキだった。英語村に着いて、早速授業が始まった。最初はネイティブの先生と一対一で自己紹介をした。英語で質問され、英語で返事をする。何とか聞き取ることができ、終わった後はほっとした。

英語での授業はいろいろで、クイズゲームをしたり、ミッションや料理、音楽やスポーツなどをした。英語で物語を作ったりもした。授業も全部英語でするので、最初は全然聞き取ることができなかったけど、毎日英語を聞いているうちに、自然と耳に入ってきて、だんだん聞き取れるようになった。何を言っているのかも分かるようになって、手をあげて発言する回数も増えた。英語って楽しいなと思えるようになった。

英語村には、韓国人の子もいて、英語でいろいろな話をした。好きな芸能人の話をしたりして、日本のこともいろいろ知っていて、ビックリした。言語が違う国の友達でも会話ができる。英語は必要だなと思った。

最初は食べ物も全然口に合わなくて、

食べられなかったし、つい日本語で話して言葉が通じなかったりして戸惑ったりしたけど、優しくて楽しいネイティブの先生や韓国の友達のおかげで、英語を好きになることができた。この研修を活かして、これから頑張っていきたい。



高二修学旅行 北海道コース

一日目

三組 野畑 寛志
七組 柚鳥 与
七組 川崎 貴乃

修学旅行初日、少しの不安と大きな期待を胸に北海道へと出発しました。人の多い岡山駅、新大阪駅、関西空港と移動しましたが、無事女満別空港まで到着することができました。これだけスムーズに移動ができたのは、事前学習の成果だと思えました。空港を一步出た瞬間の感想は、先輩や先生方から「寒い」と聞いていたにもかかわらず「思ったより暑い」でした。

北海道の暑さに戸惑いつつ、バスに乗り込み最初に向かったのは「オホーツク流水館」でした。オホーツク流水館では、本物の流



水に触れることができ、海の妖精クリオネにも出会うことができました。次に向かったのは「網走監獄博物館」でした。網走監獄が忠実に再現され、牢屋の中の囚人たちの姿を現した蠟人形もリアルでした。北海道開発時の過酷な労働についても学ぶことができ、意義深いものでした。

網走監獄博物館を後にして、一日目の宿泊地知床に向かうバスの車窓からは北海道の山々、オホーツク海、湖や草原を見ることができました。岡山も自然は豊かですが、北海道はそれ以上に豊かで、バス移動の間も飽きることなく過ごすことができました。またホテル到着後にも、部屋からは沈みゆく夕日を見ることができ、感動的でした。また、ホテルの食事、大浴場とも素晴らしく旅に疲れを十分に癒すことができました。

二日目

四組 亀山 貴弘
五組 友田 遥祐

初めての北海道の朝を迎えたが、まさに雲一つない青空で、気持ち良く二日目を迎えることができた。

乳搾りや餌やりも体験し、動物と触れ合えたことも貴重な経験だった。最後に世界で二番目に透明度が高いといわれている摩周湖を訪れた。湖面は青一色で美しく、自然の素晴らしさを感じることができた。また、宿泊先の層雲峡のホテルでの夕食は様々な料理がバイキング形式で出され、皆が楽しんで食事することができた。二日目は北海道の自然に触れることができ、充実した一日を送ることができた。

三日目

三組 山本 斐斗
五組 黒田 敬介
五組 守谷 卓真

今日は、誰もが楽しみにしていた一日かもしれない。前日に引き続き信じられないほど太陽が照りつけていた。そんな中僕たちは旭山動物園へと向かった。

旭山動物園でのおすめは、まずアザラシ館です。アザラシを様々な角度から見ることが出来る水槽のレイアウトには本当に感心しました。体全体の様子を見ることができ、特に目がクリツとしてかわいかったことが印象に残りました。あ



とはホッキョクグマ館ですが、この日はとても暑くホッキョクグマがほとんど活動していなかったことが残念でした。

午後からは、札幌での自主研修でした。班ごとに観光を楽しみました。ピルの谷間で時を刻む時計塔やテレビ塔、テレビ塔の一番上で見た景色は文字通りの絶景でした。北海道はやつぱり広くてすごい所なんだと改めて感じました。お土産をたくさん買ったたり、ソフトクリームを食べたり楽しい時間を過ごしました。夕食にはラーメンを食べましたが、岡山で食べるラーメンより一層おいしく感じました。しっかりと時間を守って行動できたこともとてもよかったです。

班のみんなで仲良く行動することができ一層友情が深まったような気がします。また機会があればぜひ訪れたいと思います。

まず、最初に向かったのは「知床五湖」であった。とても大きく海のような一湖・山頂に積雪の残る山々などの雄大な眺めに、高架の上からではあったが北海道の大自然に触れることができた。

次に、自然センターでネイチャーガイドの方から説明を受けながら、フレベの滝まで散策を行った。野生のシカがいるような森を通り、一時間ほど歩いた。絵に描いたような光景や、息をのむほどの絶景を見て、改めて北海道の恵まれた大自然を肌で感じた。



昼食に訪れた渡辺体験牧場では、本場のジンギスカンに舌鼓を打ち、牧場ならではの牛乳にも満足した。また、広大な土地を利用した放牧、その中で育つ牛とのふれあいは新鮮なものだった。牛の

四日目

一組 羽仁 豊
六組 井上愉加利
六組 高田 淳平

四日目の朝は小樽自主研修で始まりました。私たちの班はまずお土産物屋さんへ行きました。テレビや事前学習で知った様々なお菓子や特産物を家族や友達へのお土産に買いました。その後、お店が並ぶ通りへ行き四つのお店に行きました。まずは六花亭、1階はお店、2階は六花亭の商品のカフェになっていました。「雪やこんこ」というアイスクリームを食べました。次にガラス細工のお店・小樽オルゴール館に行きました。きれいなガラスのアクセサリーやオルゴールの美しい音色に「ここにずっといたい」と思いました。最後に海鮮丼のお店に行き、お昼ご飯を食べました。ほかにもまだまだ行きたいところはありませんでしたが、また小樽を訪ねてみたいと思いました。

午後からはニセコでアウトドア・インドア体験を楽しんだ。僕が選んだのはインドアクライミング。NACの屋内に設置されているクライミングウォールで行うが、2階のレストランに顔を出せる

一体何の意味を表したダンスなのかよく分からなかった。最後に会場のお客さんから一緒にステージで踊る参加者を三人ほど募った。学園からも一人参加して、アボリジニーの人に負けない風格で踊っていた。

昼食は施設内のレストランのバイキング。日本の食事と比べるとあまり美味しくないかった。カンガルーとワニの肉があり、カンガルーの肉は黒くてかたかったけれど、ワニの肉は白っぽく鶏肉のようで柔らかくておいしかった。昼食後、施設内の動物園に行った。コアラ、ワニ、カンガルー、ウォンバット、ワラビー、デインゴなどがいて、ワラビーは餌を与えることができ、前足を私の手の上においてゆっくり餌を食べる姿はとてもかわいかった。また、コアラの抱っこもした。コアラの毛は硬くてけもの臭いと聞いていて不安だったが、抱っこした瞬間、そのあまりのふわふわした柔らかさに思わず「うわっ」と声が出てしまった。ふにやっとした重みが私にしがみついていると、もう一生手放したくないくらいそのやわらかさに感動した。動物園を出ると、私達はこれからお世話になるホスト

ファミリーのいるアサートン高原へと出発した。この一日でオーストラリアの魅力を満喫することができて本当にいい経験ができた。

【四回】『ファームステイ』

五組 田村 晃輝

ホームステイが始まった。迎えにはホストファミリーのドンが来てくれた。家へ帰る途中にスーパーに寄った。ひとつひとつのもののサイズが大きいこと、また飲み物が高いことにカルチャーショックを受けた。買い物が終わって、車で少し走ると街を抜けた。そこには、日本では見ることはないだろうとても広い畑が広がっていた。畑で作られているものを聞いたりしながら走ること五分、ドンの家に着いた。

家ではホストファミリーのクリスと犬のドリーが出迎えてくれた。荷物を置き、家の中をクリスに案内してもらった。「広すぎる・・・」思わずつぶやいてしまった。さらにこの家はドンが自分で作ったものらしい。後日行ったところにもドンの作った棚や机がたくさん置いてあった。それからベランダで美味しいお菓子



と美味しいジュースを頂き休憩をした。休憩後、僕たちはドンに連れられ、外に出た。外では牛やニワトリを飼っていた。食用だそう。ドンの作業場も見せてもらった。今は棚を作っていると見せてくれた。ドンは毎日、ご飯の時以外作業していた。

家に帰り、クリスからご飯の合図。僕たちは食器を運んで席に着いてドンの号令で食べ始めた。「アーメン！」オーストラリアではこう言うらしい。その前に

英語を言っていたが聞き取れなかった。勉強しないとなあと思った。夕食のメニューは、かぼちゃのスープ、鶏肉、豚肉、牛肉、ナスとトマトにチーズをかけて焼いたもの。そしてデザートは甘いアイス。全部とってもおいしかったが、量が少なかった。

【四回】『牛との戦い』

四組 嶋村 達也

ファームステイ二日目。皆、七時に起床した。昨日と同様、コーンフレーク、パン、目玉焼きという朝食を食べた。八時から農作業が始まった。まず牛の餌である蚕の繭とコーンを混ぜたものをバケツに入れて牛のもとまで運んだ。農場には色々な動物がいて、牛、ヤギ、犬、鳥、豚、鶏、金魚という様々なジャンルがいた。

この動物達みな餌をあげるのとはとても大変だった。鳥にはひまわりの種、子牛にはミルク、犬にはウインナーをあげた。農場は大変広く、車で少し行ったところに別の農場があった。牛を誘導する仕事もあった。一匹子牛が誘導に気付かず農場に残っていた。その子牛を車に乗せて別の農場に運ぶのは大変だった。牛に何かの葉をあげているところを見た。多分予防接種か何かの薬だったと思う。夕飯には農場の牛を食べた。改めて人間は動物を殺して食事をしていることを実感し、食のありがたみを感じた。夕飯の後にはファミーステイ先の家族と一緒にゲームをした。UNOやオーストラリア伝統のゲームをした。皆で一団となっ



てゲームをするのはとても楽しかった。夜にはベランダに呼ばれ、上を見ると空は星で覆われていた。滅多に見られないらしく、私達はとても運が良かった。そして私達の二日目のファミーステイは名残惜しくも終了した。

【五日目】『グリーン島の大自然』

一組 原田 茜

修学旅行五日目、私たちはグリーン島行きに船に乗りこんだ。私は友人と一階の最後尾のデッキに立ち、遠ざかるケアンズの街並みを眺めていた。船がスピードをあげるとすぐ脇から水しぶきが上がり、そこに小さな虹が架かった。日本でもブルーなどで普通に見られる光景なのだが、なんだかとても感動してしまった。ただ、水しぶきの潮のせいで服や髪がベタベタになったことを除いては。

グリーン島に着くとグラスボートとシュノーケリングに分かれたのだが、私は水着を持って来ておらず、また酔いそうだったのでどちらもなかった。そのことは今でも後悔している。あんなにきれいな海で泳がないなんてもったいなかった。そこで、私は先生と数人の女子と海ガメを探してグリーン島一周ウォーキングに出かけた。グリーン島は三十分で一周できるほどの小さな島だったが、とても見応えのある景色が広がっていた。水色の空に白い雲、青い海に所々見えるサンゴ礁のエメラルドグリーン。どこを写真に収めてもまるで絵葉書のように

だった。そして地平線は丸く、地球は本当に丸いのだということを実感した。結局海ガメは見ることができなかったが、エイを一匹見つけ、日本にはないオーストラリアの大自然を心ゆくまで満喫した一日だった。

【六日目】『ネクト、日常へ』

二組 曾我 駿太

六月一四日最終日、友人の騒がしい声で目覚めた。モーニングコールに気付かないほど、深く眠っていた。しかし、六時間の睡眠では疲れが取れなかった。昨晩遅くまで荷造りをしていたのが原因だろう。お土産を多く買い過ぎてしまった。目覚めの悪い朝だったが、ホテルの朝食は美味しかった。自分は乗り物に弱いので腹五分程しか食べなかった。朝食後、部屋に帰り全ての荷物をまとめて、僕らはケアンズ空港へのバスに乗り込んだ。修学旅行が終わってしまうと考えているうちに、ケアンズ空港に着いてしまった。ケアンズでの日々が走馬灯のように浮かんでは消えていった。

空港に着き、トランクを預け、出国手続きをして、僕らは関西空港への飛行機

に乗り込んだ。轟音と共に飛行機が離陸した。昼食後しばらくして、機体の窓が全て閉じられて、あたりが暗くなった。飛行機では中央の席だったので外を見ることはできなかったが、飛行機はオーストラリアの青い海や美しい大地からどんどんと離れていった。明日からオーストラリアの景色はもう見ることができないのだと思った。しばらくして眠気が襲ってきて、気が付くと関西空港に着いていた。もう夜になっていた。オーストラリアの夜の暗さに慣れた自分にとって、日本の夜の街頭やビルの光は明る過ぎるように感じられた。下野駐車場に到着しても修学旅行が終わったという実感がなかった。そして皆それぞれ、家族とともに家路についた。



高二修学旅行 シンガポール・マレーシアコース

【一日目】

七組 藤井 聖大

六月九日、待ちに待った修学旅行当日。昨晩緊張からかよく眠れず、目をこすりながら集合場所へ向かった。しかし、駅に着くと眠気も飛んだ。新幹線とはるかを乗りついでやっとな関西国際空港へ着いた。片手に大きなキャリーバッグを持ち、ついにシンガポール行き飛行機に乗り込んだ。機内では、ここまでの移動に疲れたのか寝ている人もちらほらいた。やっとなシンガポールに着くと、チャンギ



国際空港の美しさ、大きさに圧倒された。その後、食事会場に向かったが、現地ガイドのトミーさんが車中でユーモアあふれるお話をしてくださり、とても楽しい時間を過ごすことができ、今回の旅はとても良い旅になることを確信した。

食事の前に、シンガポールでお仕事をされている小野さんのお話を聞いた。小野さんのお話はとても刺激的でためになる事ばかりであった。そこで学んだ事は二つある。一つはやはり、これからはますます国際化の時代となり、英語力が非常に重要だということ。もう一つは、将来は自分たちの世代が担っていくので、今自分ができることを精一杯やらなければならぬということだ。

食事後ホテルに着くと、今日の長旅で疲れたのかすぐに寝てしまった。

【二日目】

三組 西村 和紀

シンガポールでの初めての朝は、少し雨が降っていた。傘があるかと心配して

いたが、ホテルを出発するころには止んでいてホッとした。

最初に国立オーチャード植物園に行った。園内には日本では見ることのできない様々な熱帯植物が生息していて、とても新鮮だった。

次に向かったのは、この修学旅行の中でも特に楽しみにしていた、マリーナベイサンズスカイパークだ。エレベーターで最上階まで上がると、そこにはシンガポールの街並みを一望できる展望台があり、そこにはとてもきれいな景色が広がっていた。それを写真に収めるのに夢中になっていた。





マリナベイサンズの次は、さきほどのスカイパークからすぐ目の前に見えた、マライオンパークへ向かった。マライオンは想像していたより小さい、という話をよく耳にしていたが、意外と大きく迫力があり、驚いた。

二日目の午後は現地学生を加えて五人グループでシンガポールの街を自由に観光した。ちゃんと英語が通じるか心配し

ていたが、現地学生の方が日本語も話すことができたので安心した。シンガポールの進んだ技術や、様々な言語・文化に触れることができ、とても楽しかった。

【1000】

一組 山守 朝希

修学旅行三日目。ホテルでの朝食後、私たちは国境を越えて、マレーシアへと入国した。私はマレーシアについてあまり知識がなかったので、どんな所なんだろうと思っていた。しかし、いざ入国してみると、たくさんさんの自然や文化が残っているとても素晴らしい国だった。マレーシアではロウケツ染め体験をしたり、プライ村でホームステイをしたりした。

プライ村のホームステイでは伝統的な遊びである「チョンカ」を教えてもらったり、国技であるバドミントンをしたりして家族との時間を過ごした。また、夜には民族衣装に着替えて、村の伝統的な結婚式の儀式を体験させていただいた。

私が今回のホームステイで一番印象に残っているのは、ホストファミリーの優しさだ。私が上手に英語を話すことがで

きず、話が伝わりづらいことがたくさんあっても、ホストファミリーは私のジェスチャーで理解しようとし、分かりやすい英語に直して、丁寧に教えてくれた。最初は様々な不安があったが、いざ行ってみると村の人はみんな優しく、最高の体験をすることができた。また、ぜひ行きたいと思った。

【2000】

五組 金山 智哉

修学旅行四日目の朝を、私たちはマレーシアのプライ村で迎えた。日本より日が昇るのが遅く感じられた。ホームステイ先の各家庭でそれぞれ朝食をいただき、楽しかったホームステイでの時間は終わりを迎え、私たちはバスに乗り、再びシンガポールへと出発した。高速道路を走って国境に向かっていく時、ふと外を見るとヤシの木がうっそうと繁り、またそれらがいないところは赤土が目を引いた。

マレーシアを出国しシンガポールに入国して、次はセントーサ島を目指した。セントーサ島はレジャーアイランドで、私たちが楽しみにしていた場所の一

つだ。島では、各グループに分かれ、自主研修を行った。それぞれの班で昼食を済ませ、ユニバーサル・スタジオ・シンガポールや大きなマライオン像などを回ったり、お土産を買ったりして島を満喫した。木がたくさんあり、クジャクなど美しい鳥がいるのを見ると熱帯であるという実感が湧いた。

夜になると、バイキングの夕食をいただき、ナイトサファリを体験した。暗い



中、動物を見るのは若干怖さもあったが、普段見られない一面を見ることができたような気がした。そして、真夜中のチャング国際空港から日本へのフライトに臨んだ。

【5000】

七組 平山 晴啓

五日目はすべて移動だった。まず、シンガポールのチャング国際空港までバスで行き、出国手続きを済ませた。キャリーバッグは20キロをオーバーすると飛行機に乗ることができない。みんなシンガポールに来た時より、確実に荷物は重くなっており、制限ギリギリの人も何人かいた。そして、飛行機に乗って飛び立った瞬間、私たちは深い深い眠りについた。そんな中、私は機内が寒すぎて午前三時くらいに目が覚め、ひどい耳鳴りに襲われ、全然治らず苦しんだ。これが飛行機の洗礼をあびた瞬間だった。耳鳴りと寒さであり眠れず、疲れもとれないまま関西国際空港に着いた。そして、入国手続きを終え、学園に向かうバスに乗り込んだ。私は先ほど、飛行機の洗礼をあびていたので、すぐにバスの中で眠った。



休憩するためのサービスエリアに着いても脇目も振らず眠った。

関西国際空港から四時間かけて、金光学園に戻ってきた。やっぱり日本がいいなあと実感した。そして、この五日間で学んだことを今後にしつかりと生かしていきたいと誓った。

ほつま祭

力を合わせて一位に

中一 二組 池田 昇生

土曜日と日曜日にはほつま祭がありました。夏休み頃から準備を始めて、九月まで準備をしていたと思うと、とても長いようで短く、すごく楽しかったです。準備をするときもたくさんの方がいました。初めは紙に全員が説明文を書いて、次にバイオマスツアーに参加して木工体験をしたり、バイオマスの工場の説明を工場の方にしてもらったりもしました。その時にももらったチップで教室の展示に使ったり、その他のかざりつけなどをしました。教室には、木の家や手作りの木があったり、木のおもちゃがあったりと、予想以上にすごい展示になりました。このときはまだ、グランプリに入ることはないと思っていました。

そして、本番当日の日をむかえました。土曜日、最初の日は他の展示場を見てまわったり、二組の割りばしゲームの説明

役をしたりしました。思った以上にお客さんも来てくれて、

「すごい！」

「グランプリいけるんじゃない？」という声を聞いて、とてもうれしかったです。

日曜日は、土曜日よりもお客さんの数も多く、家族や友達が見に来てくれました。この日は、ほほ教室で、呼び込みや当番をしていました。その後に、ダンス部やコーラス部などを見に行きました。そして閉会式。二組はグランプリ！一位になることができました。正直、本当かどうかわかりませんでした。でも、私たちが思った以上に二組の展示がすごかったんだと思うと、とてもうれしかったです。

私は、ほつま祭で友だちと力を合わせて一位をとれたことがうれしかったです。一人の力では当然できないし、ほつま祭を通じてさらに仲



良くなった友達もいます。これからもクラス全員で仲良くしていきたいです。

ほつま祭を終えて
中二 一組 栗田 夏希

私はほつま祭を終えてとてもほっとしています。もう終わったんだという解放感にひたっています。とても楽しい2日間を過ごせたと思います。

まず、ほつま祭は演技をするか展示をするかで多数決を取りました。その結果、演技をやるということになりましたが、惜しくも抽選ではずれ、展示をすることになりました。私は演技しかやったことがなかったのもとても不安でした。まず展示にするテーマを決め、その後1人1人のテーマを決めて、下書き、本番という大変な過程でした。

私はウミガメについて調べ、渋川の水族館に見学に行きました。そこでは産まれて1年の赤ちゃんガメや大きくなったガメなど様々なガメのほかにいろいろな種類の魚やペンギンがいました。

私はウミガメのことについて調べて知減の危機に襲われているなんて初めて知

りました。私たちのクラスのテーマは絶滅危惧動物・未確認生物・珍獣なのでクラスみんなが調べたものは分かりやすく普段動物園で見ている動物も絶滅危惧種に登録されているなんてビックリしました。例えばアフリカ象・ゴリラ・ライオンなど、定番の動物ばかりでした。

私はこのテーマで調べて分かったことは、動物が絶滅する原因は人が多く関わっているということです。人間が捨てたゴミや海の水の汚染、ペットとして持ち込まれた外来種などその他にも人間が原因となっているものが数多くあります。これからはこれらの動物たちを守っていかねばならないと私は思います。

この甲斐あってか結果発表のとき、なんと第2位という栄光が手に入りしました。とても嬉しかったです。内田先生が言ったように、「順位は後からついてくる」というのは、本当だったようです。



みんなで力を合わせて頑張ったことに良かったと思います。

3年生の演劇ではすごい迫力を感じました。すごく感情がこもっていて感動しました。

来年、私たちも先輩たちのようにするんだと思うとちょっと不安になります。私は先輩に負けられないような最高の演技をしたいと思います。とても楽しみです。私は今年のほつま祭は一生の思い出になりました。次の大きな行事の体育祭もこの意気で成功させたいと思います。

特別な思い出に

中三 六組 西田 風沙

ほつま祭を終えてクラスの団結力が深まったなと思いました。練習の時はなんとなくまとまり感が見えないなという思いもありましたが、練習が進むにつれて、だんだん団結力、一体感というものが出てきて、本当に嬉しかったです。クラスみんなという時が一番楽しかったなと思いました。

背景を作製する時に、こんなに大きなものをたった数日で仕上げられるのだからか、と不安でいっぱいでしたが、いい

ものが作れて良かったです。スカートに付いたインクもいい思い出の1つになりました。その他にも花びんやプレゼンなどの小物も作製し、充実した学校生活というような経験が出来て幸せでした。私はこれまで、何かに一生懸命になっ楽しんでやる、ということがあまりなかったのですが、ここまでのやりきった感じや、みんなで精一杯頑張ったからだと思います。

そして本番。当日は教育実習でお世話になったゆかり先生も来て下さって本当に、いろいろな方に支えられて完成出来たんだなと実感しました。





と後悔した点はありましたが、それ以上に達成感という大きなものにはかきませんでした。劇が終わった後のみんなの安心したような、やりきったような笑顔は私は絶対に忘れません。

このクラスですべてすてきな劇が出来たこと、みんなとの達成感私の一番の特別な思い出です。結果は2位と正直、とても悔しかったけれど、6組の中では一番だと思っています。

大切なこと

高一 一組 荒尾 真衣

「第1位、1年1組修学旅行」呼ばれた。最も呼んでほしいところで私たちが呼ばれたのだ。グランプリ！言葉に出来ないくらいうれしかった。今まで一緒に頑張ってきた仲間と手を握り、この発表を聞いたあの瞬間は私にとって生涯の宝物だ。

準備期間はたった2週間しかなかったが、私はその中で多くの事を得ることができた。最初、台本が決まった時は不安でいっぱいだった。喜劇だし、キャスト一人ひとりのキャラをちゃんと作れるかどうか心配だった。しかし読み合わせを重ねていくにつれてキャラが出来ていき、その役を演じるのではなく、その役になりきっていくことができた。監督の演技指導のもと、みんなで意見を出し合い、私たちにしかできない「修学旅行」を作り上げていった。しかし本番を2日目にひかえた金曜日、私は思うような演技ができなくなっていた。「グランプリ」という言葉が頭から離れず、時間内に収めることができないう劇にもどかしさを感じていた。少しの間がもつたいたなく感じ、

セリフは早口になり集中力が切れていた。そんな状態の私に、監督と先生が「たとえ時間内に収めたとしても自分たちが本当にやりきったと思える演劇にしないと意味がない。後悔しないように自分たちがお客さんに伝えたいことを精一杯伝えることが大切ではないのか。」という言葉をかけてくれた。この言葉に私は大切なことを気付かされた。そして時間の事は忘れて後悔しないように最高の演劇をしようと思い決めた。そして迎えた本番。ハプニングがあったもののみんなでカバーし、今までで一番良い演劇をすることができた。幕が閉まった時は、この上ない達成感でいっぱいだった。この演劇で得たことを大切にしていって、このすばらしい1組の仲間とこれからももっと絆を深めていきたい。



充実してありました

高一 一組 寺岡 良将

僕たちのクラスは演劇をするということになって、初めは「え？この人数で？」とか「誰々キャスト出るん？」みたいな声がこのクラスでは結構ありました。しかも、まさか僕が舞台に出る、なんてことは想像もつきませんでした。おまけに、監督もするということが決まったら、なんだか毎日落ち着かなかつたし、不安で本番当日まで胃がとても痛みました。

そんな頼りない僕をいつも支えてくれたのがクラスメイトでした。失敗したときは笑って許してくれたり、不安なときもみんなが頑張っている姿を見ると、なんだか元気が出たりしました。



僕が監督と主役をすると決まった日から、僕はあんな一つのことだ

けは必ずやっつてやろうと決めたことがありました。それは、人の頑張りや努力を認め、共有し、そして優しさで気づくということ。クラスをまとめるには、ただ単に偉そうにしていたり、命令したり、がむしやりに頑張るだけでは絶対うまくまもらないと思うし、何より楽しくないと思ったからです。



劇をするに当たって一番印象に残ったことは、20人の団結力です。平日は7時間授業でほとんどの人が部活で忙しい中、効率よく練習をするためには団結力は絶対に欠かせないものでした。このクラスの絆があったからこそ、疲れたときも諦めかけたときも何度も救われました。

だから僕はこのクラスの、この20人の監督ができて、主役ができて、そしてこのクラスの学級委員でいることを誇りに

思います。

まだまだたくさん困難があると思いますが、この20人みんなで乗り越えられないものはないと思います。これから学級委員としてよりよいクラスにすることで、このクラスに恩返しができることだと思います。



中学 体育会



「一組最高」

一年一組 横藤田麻結

待ちに待った体育会。天候の影響で一日遅れで開かれました。この日のために毎日の練習を頑張りました。そう思うと緊張が止まりませんでした。吹奏楽の演奏も上手くいって、良い踏み台になったと思いました。

ムカデ競走では、5人の息の合ったリズムで見事1位に輝きました。

一番印象深いことは、中1から中3の一組全員で創り上げた応援合戦です。これは、団長とチアの先輩方が中心となって取り組みました。時々、ふざけて話を聞いていなかったり、練習に出られなくて沢山迷惑をかけたけれど、それでも私達に優しく接してくださった先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

本番の時にも、頑張ろうねと声をかけてくださり、とても励まされました。いざ本番となると、すごく楽しくて最高のステージになったと思います。

マ스ゲームでは、心からの笑顔で踊ることができました。キメるところはキメて、声を出すときは大きく出すことに注意しました。



前日の練習で我々1組は何度も「ハイ！」の練習をしました。本番でも、その時のことを忘れずにできたので良かったです。男子の組体操も、一人ひとりが輝いていてとてもカッコ良かったです。中3のウラジャでは、声が大きくて驚きました。最後の五輪の円では、「て」という一文字と「おもてなし」という言葉を言いました。とても素晴らしい「おもてなし」ができたと思います。

残念ながら赤団は優勝することはできなかったけど、協力や助け合いというものを学べて良かったです。これからも、「おもてなし」の心を忘れずに生活していこうと思います。最後に…、一組最高〜!!

「すべてが最高」

一年三組 井上奈々子

私は体育会を通していくつかのことを

思った。一つは、しんぼう強さやがまん強さだ。応援合戦の練習が始まって行進の練習や部活に30分ほどしか出られないときなどもあり、しんどい時もあったが、その一つ一つが、しんぼう強さやがまん強さを教えてくれたと思う。

二つ目は兄弟学級で体育会をするという事で色々な刺激を受けたことだ。どの競技をするにしても自分たちのクラスだけでなく二年生や三年生の三組の先ばいを行うことで、先ばい方の足を引っ張らないようにと思い、がんばれる部分もあった。それに加え兄弟学級で行うことにより、先ばい方との関係も深まった。

そして、私が一番思うことは、団長、チアリーダーの指導力だ。団長やチアリーダーは私たちをいかにやる気にさせるか、がんばらせるかを一番考えてくださっていた。特にチアリーダーの先輩は、本番が近づくと団員の疲労感を吹き消すような大きな声を明るさでみんなを指導して下さった。とても輝いていて心から尊敬した。

雨が降って延期になっていた体育会も本番を迎えて応援合戦やマスゲームもとても上手いき、男子の組体操はとて

感動して三年生のうらじゃはとてもカッコ良かった。中二の先輩が考えてくれたダンスもとても可愛くて踊っていて元氣になれた。

一年生の部で二位になり、みんな

で喜んだ。団結の賜物だと思う。優勝した二組やその他のクラスも素晴らしかった。どのクラスも最高だったと思う。どれも団長、チアリーダーを含む四役と団員が力を合わせて作りあげた素晴らしなものだと思う。

来年の体育会でもチームで団結して行うことと、自分のベストを出し切れるよう頑張りたい。



「空の青さと地球の青さ」

二年三組 吉原 光

爽やかな秋晴れの中、私たちの熱い一日が力強い行進の音とともに幕を開けました。

本当なら体育会は土曜日に行われる予定でした。しかし、あいにくの雨で次の日に延期ということになりました。雨がずっと止まらずまた次の日に延期になってしまうかと心配していたけど次の日の朝はとても爽やかな秋晴れでした。晴れたのは良かったけどグラウンドコンディションが悪く二時間遅れで始まることになりました。朝6時半から先生方や高校の野球部の先輩方がグラウンドの水抜きをしてくれたと聞きました。私たちのために朝早くから…。本当にありがたいことだと感じました。競技が始まるとどのクラスもドラム缶を叩き大声で応援していました。その姿を見て三組も負けられないなと思う、一生懸命声を出して応援しました。

自分の競技の時にかく勝つことだけを考えていました。障害物競走を一位でゴールした時も嬉しくて嬉しくて「キヤーツ」と叫んでしまいました。

「第一位は五組！」その言葉を聞いた瞬間、思わず両手でのガッツポーズが飛び出してしまった。すごく嬉しくて、その後ずっと笑顔だった。周りには泣いている人も多々いて、みんなが団結して頑張った証だと思った。



ほつま祭が終わったところからだんだんと体育会の準備を始めてきて、ダンスなどを踊り始めた時は、みんなには悪いけど正直、踊りたくなかった。恥ずかしいから。でも団長やチアリーダーの必死な顔を見てみると、ダンスへの恥ずかしさやどうでもいいやと思いう気持ちを持っていた自分がか嫌で、むかついてきた。公民の授

業で「体育会はこれをやったら失敗する」というシミュレーションを班で考え、意見を出した時、その時の自分の思いが「やってはいけないこと」の中に入っていることに気付いた。その時も自分にもかついた。だから、クラスのため、みんなのため、そして五組のために頑張ろうという気持ちがフツフツとわき上がってくるのを感じた。

毎日、授業が終わったら部活動に走って行っていたが、それからは教室でダンスをしたり、応援合戦で使うキーキを作ったりして準備をした。最初は不服だったが、だんだんと楽しくなってきた、積極的にやるようになり、また話したことのない人も話ができるようになった。

本番、今まで練習してきたもの以上を見ることができたと僕は思っている。練習してきた時間はとても長くて多いのに、本番はたったの十分で、なんだか終わった瞬間は実感がなかった。逆に実感がわいてくるとなんだかさみしい気もした。この体育会は三年間の中で一番充実していて、結果もよくて、楽しめた体育会

だと思う。また、五組のクラスの団結する輪が強くなった気がする。二大行事がもう終わってしまい、あと中学生も半ぐらいだと思うと寂しい。でも、その短い期間を大切に充実していて楽しくやっていきたいと思う。五組、最高！



生徒会活動

ほつま祭 9月14・15日の二日間、統一テーマ「結ぶ心をつなぐ」を掲げて、日ごろの成果を発表した。文化部・同好会13団体と数学クラブが展示部門に、ダンス部、音楽部吹奏楽団、コーラス、軽音楽部が演劇部門で日ごろの成果を発揮した。また、中高各クラスは展示17団体、演技13団体が発表を行った。高3有志の模擬店では生徒が生き生きと活動し、今年も大盛況であった。やつなみ保護者会はステンドグラス、ベネチアングラスアクセサリーなどの展示、体験が行われた。また、今年も友愛セールや模擬店が盛況であった。

ほつま祭期間中には「一日入学PARAT II」として、小学生を対象にスタンプリーが行われ、併せて入試相談コーナーも設けられた。テーマにふさわしい、各クラスの個性が発揮された取り組みとなった。

なお、コンテストの結果は次のとおり。

中学展示の部

- 第1位 1年2組
来てみて発見！木のふしぎ
- 第2位 2年1組
Let's go to 1年2組！
- 第3位 1年1組
正義のヒーロー動物戦隊アニマルンジャー！動物たちの平和を守れ！

中学演技の部

- 第1位 3年1組
カチカチ山裁判
- 第2位 3年6組
夕輝くぼくの生きていた証
- 第3位 3年4組
Mental health ～病識なき人々

高校展示の部

- 第1位 1年3組
僕らの甲子園～栄冠は君に輝く～
- 第2位 2年6組
祭る
- 第3位 1年5組
Universal Studios Five ～41の

最高をあなたに！

高校演技の部

- 第1位 2年1組
出口のない部屋で
- 第2位 1年1組
修学旅行
- 第3位 2年7組
踊る金光学園！！ウルトラマンより愛を込めて

KOPの部

- 第1位 除光液で落ちる。Yes!マニキュア5 feat.ヒビーン！

高校生徒会

体育会 好天に恵まれ、9月27日に開催された。様々な競技で熱戦が繰り広げられ、応援も盛り上がるなか、青ブロック(2年2・4・6組)が優勝、紫ブロック(1年1・2・3組)が第2位と、先輩を抑え、下級生が大活躍した。

秋季球技大会

10月29日、爽やかな秋晴れの空の下、1年生・2年生で実施した。ソフトボール、ティボール、フットサル、ドッジボールの4種目が行われ、1年生は2組が、2年生は3組が優勝した。

中学生徒会

8月1日に浅口支部生徒会交流会が本

校で開かれた。今年度は、各校の自校紹介をし、各校の生徒会活動についてグループで話し合った。その後、小体育館に移動し、卓球やドッジボールで汗を流し、親睦を深めた。ホスト校として、本校事務局員が企画と当日の司会進行を行い、滞りなく終えることができた。

ほつまつ祭では、演劇部門には3年全6クラス、2年1クラス、展示部門には2年5クラスと1年全5クラスが参加した。展示は、夏休み中に様々なところに取材に行くなど内容の濃い展示となった。演劇では各クラスの熱演が見られた。

体育会は雨のため順延され、6日に2時間遅れで開催された。ほつまつ祭以後、3週間程度の取り組みの中で、3年を中心に兄弟学級が団結した素晴らしい応援合戦を展開した。マスゲームは1・2年男女で「組体操」、3年は「よさこいソーラン」に取り組み、元気がいっぱいにパフォーマンスを繰り広げた。学年の部第1位は3年2組、2年1組、1年2組、兄弟学級の部第1位は2組、応援の部第1位は5組であった。

6年目となった「リレクレーション作戦」も一学期より行っている。「日頃お世話

になっている町内やJR金光駅等に対し、お礼(感謝)の気持ちで清掃という形で表す」「登下校のマナーについて考える機会とし、学園の仲間が毎日清掃することによってゴミをしない、迷惑をかけるないという意識を各々に育てる」が目的で、クラス、部、生徒会事務局が各単位的でチームを作り、試験中を除き一日おきに連続して金光駅から学園までの主に通学路を中心に清掃活動している。町内の方にも温かい言葉をかけていただき、どのチームも一生懸命取り組んでいる。

各委員会の動きとしては、評議員会は一学期に取り組んだ「愛の募金」に続いて、今年も赤十字を通して「伊豆大島等台風26号災害東京都義援金」に取り組み予定である。

《中・高新聞部》

8月に一泊二日の合宿を行い、ほつまつ祭の展示・演技の紹介記事をまとめた。9月にほつまつ新聞(ほつまつ祭号)第194号を発行した。また、教育実習生紹介号と体育会速報を発行した。

《天文気象部》

7月、岡山大学で行われた「高校生・大学院生による研究紹介と交流の会」に

参加し、「木星の衛星イオと光速度」の発表を行った結果、最優秀賞をいただくことができた。

8月、横浜で開催された全国大会であるSSH生徒研究発表会に、学校代表として参加し、「木星の衛星イオと光速度」の発表を行った結果、文部科学大臣賞に次ぐ科学技術振興機構理事長賞をいただくことができた。また、弥高山合宿を実施し、ペルセウス座流星群の観測やアンドロメダ銀河・夏の大三角の写真を撮ることができた。

9月、ほつまつ祭では、例年のように、展示・プラネタリウム・天文台公開を実施できた。

10月、日本学生科学賞に「木星の衛星イオと光速度」の研究を論文にまとめて投稿したところ、岡山県審査で「奨励賞」をいただくことができた。

11月、毎月恒例の夜間観測を実施した。天文台及び望遠鏡の操作方法の講習会を開き、月などの写真を撮った。また、倉敷科学センターで行われた科学の祭典に参加し、光のスペクトルについてブラスを出し、来場者に簡易分光器の作成や様々な光のスペクトルの観察を体験させ

ることができた。

《生物部》

8月に一泊二日で合宿を行い、ほつまつ祭に向けて展示の準備を行った。昼間だけでなく、夜間採集も行い様々な生物を観察し、標本を作った。また、合宿中には岡山大学の研究室を訪問した。研究している動物を観察したり、教授の講義を受けたりすることで高度な研究や大学の雰囲気も味わうことができた。

11月に倉敷ライフパークで行われる「青少年のための科学の祭典2013」に参加した。

《電気科学部》

9月1日里庄中学校体育館で、仁科芳雄博士顕彰事業、第21回ロボットコンテスト2013に中学3台、高校3台が出場した。その中で、小林(中3)・中西(中2)の「サバイバル」号、工藤(高1)・楠戸(高1)の「アスカロン」号がそれぞれ決勝トーナメントへ勝ち残った。結果はトーナメント1回戦敗退だったが、久々の決勝トーナメント進出が来年に向けての新たな目標を作ることができた。

ほつまつ祭では、来場者に実際にロボッ

トを作ってもらい、簡単なロボコンをしてもらった。

中学生は、11月24日に行われる創造アイデアロボットコンテストに向け、ロボットの作製を行っている。目指せ全国大会」を目標にし、頑張っている。

《中美術部》

7月に1泊2日で合宿を行い、ほつまつ祭の作品を完成させた。4つのグループに分かれて完成させた「動」をテーマにした作品は動きの躍動感を表現したダイナミックな作品になった。また個人作品は様々なアイデアやテーマがあり、個性あふれる作品をほつまつ祭に来てくれた人たちに見てもらった。

《高美術部》

ほつまつ祭では美術教室の床を色鉛筆でフロタージュし、20センチ程度の長さの作品を展示、また観覧者にそのフロタージュの紙の上に一筆書きで絵を描いたもらいました。現在は高校美術展に向け作品を制作中です。

《中・高書道部》

ほつまつ祭では2日にわたり、初めての書道パフォーマンスを披露した。会場は満員で、緊張の中2m×3mの紙に気持

ちをこめた書を発表した。京都アメリカ大学コンソーシアムでは留学生やそのホストファミリーの方々や書道を通して親交を深めた。

《茶道部》

今年のほつまつ祭は、悪天候にも関わらず、多くの方々に来ていただいた。中学生も先輩を見習って積極的に参加してくれた。ここ数年で部員数も大幅に増えたが、普段からも多くの部員が部活動に積極的に参加している。

《音楽部吹奏楽団》

7月14日にエイコンスタジアムにて行われた第95回全国高校野球選手権岡山大会にて、本校野球部の応援を行なった。7月20日には、金光教本部境内で行われた金光町夏祭りに参加し、「夢をかなえてドラえもん」「シンクロボンバイエ」「君の瞳に恋してる」「ハナミズキ」「Welcome」を演奏した。7月28日のオープンスクールでは、開会式で「あまちゃん」「Make her mine」を演奏した。また、7月31日から8月2日の二泊三日で、牛窓研修センター・カリヨンハウスにて合宿を行なった。8月3日には、玉島祭りに参加し、「あまちゃん」「Make

her mine]「君の瞳に恋してる」「ひこ
うき雲」「ハナミズキ」を演奏した。8
月21日には、里庄総合文化ホールフロイ
ドにて、第41回定期演奏会を開催。第1
部では、「SLAVAY」「心は清流にせせら
ぐ」「ひとひらの空」「バガニーニの主題
による幻想変奏曲」を演奏。第2部は、
「MOVE ON」「あまちゃん」「Joy」「イ
ンベーターインベーター」「みんなのう
た」「サザンオールスターズ・メドレー」
「ひこうき雲」「それでも、生きてゆく(合
唱)」「Choo Choo TRAIN」「ハナミズキ」
「ソーン&SORAN」「Make her mine」
「勝利への讃歌」を演奏した。8月24日
には、浅口花火大会にて、「あまちゃん」
「Make her mine」「サザンオールスター
ズ・メドレー」「ハナミズキ」を演奏した。
9月1日には、ふくやま芸術文化ホール
リーデンドロースにて、第41回定期演奏会
を開催。プログラムは里庄公演と同じ。
9月15日のほつま祭2日目には、ほつま
体育館にて「ハリウッド万歳」「あまちゃ
ん」「みんなのうた」「サザンオールスター
ズ・メドレー」「Make her mine」を演
奏した。11月10日には、「井原市市制施
行60周年記念イベント星空サミット」に

て、「あまちゃん」「マーチエレガント」「夜
空ノムコウ」「You cant stop the beat」
を演奏した。11月14日の創立記念式で
は、「神人の栄光」「学園歌」「Sheltering
Sky」「ヨークシャーバラード」「イエロー
マウンテンズ」を演奏した。11月17日に
は、金光公民館での金光町音楽祭、11月
23日には倉敷市民会館での第37回バンド
フェスティバルに参加予定。

《音楽部 コーラス》

6月29日(土)の午後、保護者会が開
かれ、サマーコンサートに向けての説明
や体制づくりをすることができた。練習
見学会も行い、たくさんの方の保護者の参加
があった。

7月15日(日)に少年少女合唱団「ひ
まわり」との交流会を、本校中学音楽室
で行った。歌やダンスを学園生が中心に
なって教えた。はじめはお互いに緊張し
ていたが、徐々に打ち解け、楽しく笑顔
のあふれる会となった。

7月29日(月)～31日(水)にかけて、
夏合宿を行った。短い時間ではあったが、
全体練習からシアやトーンチャイム、劇、
フラッグの練習や道具の制作など、細か
な部分まで充実した3日間となった。

つま体育館において、コーラスの発表を
行った。サマーコンサートで歌った曲に
加え、メドレーで「輝く月のように」「ミ
ラクル」「流星」「Happiness」「歌うた
いのバラッド」を歌った。意欲的にソロ
をする部員もおり、良いステージとなっ
た。

11月10日(日)に福山市蔵王町にある、
グループホームなごみのなごみ祭りにゲ
スト出演させていただいた。童謡や懐メ
ロを中心に歌い、また手遊びなどを一緒
にして交流することができた。訪問演奏
は部員たちにとって、貴重な場となるの
で、今後とも積極的に行っていきたい。

《英語部》

部員は現在、高校2年生8名(男子3
名、女子5名)。2学期の活動は、英語
ゼミのポスター発表に向けた個人練習の
みとなった。15分のレッスンの中で、原
稿を見ることなく、英語の自然な音声や
イントネーション、強勢やリズムで発表
できるように、それぞれが頑張っている。

《写真部》

ほつま祭において「Colorful」
をテーマに、部員それぞれが撮影した写
真を展示した。また、第61回ニッコール

フォトコンテスト(U31)の部において
数千点の応募の中から高校2年の高田純
平君が入選し、11月2日に東京で授賞式
が行われた。

《中放送部》

7月30日・31日に校内で中高合同の強
化練習を行い、文化祭の音響や発声練
習、グループに分かれて、ビデオカメラ
を使って簡単な番組を制作した。また、
入試説明会などで使用する学校案内の番
組を作成。授業や部活動、行事の内容な
どを生徒目線で描いた作品となった。生
徒たちは、初めての本格的な番組制作に
戸惑いながらも、懸命に取り組むことが
できた。続いて、9月14日・15日のほつ
ま祭と10月6日の体育会でアナウンスや
音響を担当。短い練習期間の中で、その
力を存分に発揮した。10月初旬には、岡
山県主催の「第2回晴れの国おかやま映
像コンテスト」の「岡山わが町自慢部門」
にCMを出品し、審査員特別賞を受賞し
た。なお入選作品は、岡山県のホームペ
ジで見ることができる。

《高放送部》

7月30日～31日にかけて強化練習を
行った。特に文化祭の音響や発声練習を

8月4日(日)に里庄総合文化ホール
「フロイデ」において、10回目のサマー
コンサートを開催した。第1ステージは
「歩み」をテーマに、昭和と平成のJ-P
OPの名曲を中心に女声、男声、混声、
また中学生、高校生別に声で歌うなど、
合唱の様々な可能性を追求した。第2ス
テージは混声合唱とピアノのための「新
しい歌」をOBOG合同で歌った。変化
にとんだ5曲だが、世代を超えて一つの
声にし、歌い上げることができた。800人
を超える多くのお客様に来ていただき、
第3ステージは「Anniversary」をテー
マに、記念すべき10回目のコンサートを
歌やダンスに劇、チャ、フラッグなどを
交え、元氣いっぱいステージにするこ
とができた。

8月31日(土)に福山ニューキャッス
ルホテルにおいて、ほつま同窓会福山会
の総会にゲスト出演させていただいた。
サマーコンサートで歌った曲に加え、ス
ピッツメドレーなどを発表した。新しい
体制になって初めての演奏会であった
が、よく頑張りに次につながるものとなっ
た。

9月15日(日)のほつま祭2日目には

中心に活動を行い、親睦も深めた。9
月15日(土)・16日(日)のほつま祭では音
響係として活躍した。また、体育会でも
放送係としてアナウンスを中心に選手紹
介を行った。第37回岡山県高等学校総合
文化祭兼第37回岡山県高等学校秋季放送
コンテストが11月24日(日)に就実高校
で開催された。1年生のアナウンス部門
に草加帆果、朗読部門に川上百代、山本
彩加が2年生のアナウンス部門に平松佳
乃子がそれぞれ第3位に、田辺恭子が第
1位に選ばれた。田辺恭子は来年度7月
30日・31日に茨城県日立市で開催される第
38回全国総合文化祭放送文化部門に出場
が決定した。

《囲碁将棋部》

10月5日(土)、水島工業高等学校で
開催された岡山県秋季将棋大会(新人戦)
において、羽仁豊(高2)が個人戦Aブ
ロックで優勝。全国大会(1月31日～2
月1日北海道函館市)・中国大会(12月
21日～22日鳥取市)への出場を決めた。
羽仁君は「僕はこの度、第33回岡山県高
等学校秋季将棋大会で2連覇を果たすこ
とができました。春の県大会に続いで
二連覇がかかっていたので、達成感とい

うより、再び前年度優勝者としての意地を見せることができ、安心したという思いのほうが強かったです。また、この夏、僕は全国大会で3位入賞することができました。だから今度の全国大会ではこの夏以上の結果を必ず残したいと思います。中国大会でも、去年の6位入賞以上の結果を残せればと思います。

今僕が大好きな将棋に打ち込めるのは周りの人々の優しさと思われた環境のおかげです。感謝の心を忘れず、日々精進していきたいです。」と述べた。

《科学部》

助言者として坪井先生をお迎えし、テーマ決定や具体的な実験のアドバイスを頂きながら活動中。夏休みには、浅口の小学生に向けての科学講座（指示薬を使ってのPH測定）や、徳島香川方面への合宿を行った。また、ほつま祭では体験ブース（プラ版、スライム、乗作りなど）や活動報告の展示を行った。その他、川教室の手伝いや、倉敷ライフパークでの科学の祭典への参加など、精力的に活動を行っている。

《軽音楽部》

ほつま祭で4バンド13名が演奏を行っ

た。練習した成果を存分に発揮した。

《文芸部》

ほつま祭で文芸誌「榴火」を販売し、無事に完売した。また三作目となる習作集を作成し、日々、部員同士で切磋琢磨している。

《ダンス部》

平成25年9月15日(日)ほつま祭で、「百華涼蘭」と名うって、蘭のように華やかに涼しげに、中1から高2までの30名で、10作品を踊らせていただいた。全員で力をあわせ、それぞれに作品「百華涼蘭」をつくりあげることができた。

《中陸上競技部》

・岡山県中学校秋季陸上競技記録会
眞田 剛寛 400m 3位
・岡山県中学校秋季大会
藤井 美帆 100m 8位
200m 7位

《高陸上競技部》

・岡山県高等学校新人陸上大会
三輪 大貴 400mハードル 7位
徳原 真奈美 400m 2位
400mハードル 3位
大久保 咲紀 400m 3位
清水 沙紀 500m競歩 3位

1600mリレー 6位
徳原真奈美 大久保咲紀
村上萌実 片山亜美

・岡山陸上競技カーニバル
大久保 咲紀 400m 優勝

清水 沙紀 400mハードル 5位
500m競歩 3位
田頭 操真 300m障害 3位
徳原 真奈美 400mハードル 6位
若狭悠佑 ハンマー投げ 6位
・中国高等学校新人陸上競技大会
徳原 真奈美 400m 4位
400mハードル 4位

《ラグビー部》

大久保 咲紀 400m出場
徳原 清水が12月25日から徳島県で開催される中国四国選抜合宿に参加します。

新チーム最初の試合として、毎年恒例の倉敷工フェスティバルin鴨方に参加。20分×3本の試合であったが、改めてラグビーの楽しさと厳しさを感じた。8月19日からは2泊3日で校内合宿を実施。多くの卒業生に支援をいただき、また試合も行うことができた。9月22日には初めての公式戦を行い、3年生を残す津山

工業に0-97と完敗。しかし翌週の津山高専とは21-40と敗れたものの通用する部分もあり、大きな課題と少しの収穫を実感できる大会となった。11月4日全国大会予選では関西高校に0-53と敗退。何度か相手ゴールに迫るも、残念ながらノットライに抑え込まれた。3年生が残るチームとの対戦ばかりで厳しい戦いが続いたが、この経験をプラスに変えて、新人戦にチャレンジしようと考えている。

《中男子ソフトテニス部》

7月6日(土)・7日(日)に、井原運動公園テニスコートで行われた備南西地区夏季ソフトテニス大会では、個人戦に6ペアが出場し、渡辺・目黒、森矢・佐藤、浅野・岡野、三宅・石原ペアが3回戦までに敗退。土屋・桑田、黒川・竹内ペアがベスト8に入り、県大会への出場権を獲得した。団体戦では予選リーグで神島外中、笠岡西中にそれぞれ3-0で勝利し、決勝トーナメントに進出。準決勝で大島中に1-2で敗れたが、3位決定戦で新吉中に2-0で勝利し、県大会出場を決めた。7月22日(月)にマスカット運動公園テニスコートで行われた

プロシードカップには4ペアが出場した。浅野・岡野、三宅・石原、土屋・桑田ペアは予選リーグ敗退、黒川・竹内ペアは決勝トーナメントに進出し、ベスト8に入った。7月24日(水)・25日(木)に岡山市浦安総合公園テニスコートで行われた県大会では、個人戦で土屋・桑田ペアが2回戦敗退、黒川・竹内ペアが3回戦敗退であった。団体戦では児島中に0-3で初戦敗退であった。8月3日(土)に井原運動公園テニスコートで行われた第15回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会には20ペアが参加し、黒川・竹内ペアが1部で優勝、土屋・桑田ペアが3位、三宅・石原ペアがベスト8、佐藤・大出ペアがベスト16に入った。他は3回戦までに敗退した。同じくII部で石原・福井ペアがベスト8に入った。8月10日(土)・12日(月)にかけて校内合宿を行い、ソフトテニス技術の向上と部員同士の親睦を深めた。3年生20名がここで引退となった。

新チームに代替わりし、9月21日(土)に備西支部ソフトテニス研修会に4ペアが出場した。磯田・高垣、横山・小野ペアが2回戦までに敗退したが、佐藤・大

出ペアがベスト16、樋口・福嶋ペアが3位に入り、地区第3シードを獲得した。10月19日(土)・22日(火)に井原運動公園テニスコートで行われた備南西地区秋季ソフトテニス大会で、個人戦には6ペアが出場し、荒尾・福井、金川・才野、磯田・高垣、横山・小野、樋口・福嶋ペアは3回戦までに敗退。佐藤・大出ペアが3位に入り、県大会の出場権を獲得した。団体戦では予選リーグで笠岡東中、笠岡西中にそれぞれ3-0、2-1で勝利し、決勝トーナメントに進出。準決勝で里庄中に1-2で敗れたが、3位決定戦で新吉中に2-0で勝利し、県大会出場を決めた。11月11日(月)・12日(火)に備前市総合運動公園テニスコートで行われた県大会では、個人戦で佐藤・大出ペアは2回戦敗退。団体戦では高梁中に0-3で敗れ初戦敗退であった。冬休みには、来年の夏季県大会での勝利を目指して練習していきたい。

《中女子ソフトテニス部》

7月6日(土)・7日(日)に井原運動公園テニスコートで行われた備南西地区夏季ソフトテニス大会で、個人戦には6ペアが出場し、西山・佐々木ペアが優

勝、その他のペアは3回戦までに敗退。団体戦では予選リーグで笠岡東中学校に勝利したものの、新吉中学校に敗れ、決勝トーナメントには進めなかった。7月24日(水)に岡山市浦安総合公園テニスコートで行われた県大会では、西山・佐々木ペアは2回戦敗退。

8月6日(火)に井原運動公園テニスコートで行われた第15回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会に7ペア参加し、西山・佐々木ペアがI部で優勝、赤澤・向がベスト16。同じくII部で山本・大田ペアがベスト8、塚岡・黒川ペアがベスト16に入った。

10月19日(土)～22日(火)に井原運動公園テニスコートで行われた備南西地区秋季ソフトテニス大会で、個人戦には6ペアが出場し、向・畠山佳ペアが3位、その他のペアは3回戦までに敗退。団体戦では予選リーグで笠岡西中学校・矢掛中学校に敗れ、決勝トーナメントには進めなかった。11月11日(月)に備前市総合運動公園テニスコートで行われた県大会では、向・畠山佳ペアは2回戦敗退。11月16日(土)金光スポーツ公園テニスコートで行われた第16回チャレンジカッ

プ備南西地区中学生ソフトテニス大会に6ペア参加し、畠山優・畠山佳ペアがI部でベスト16、同じくII部で向・黒川ペアが準優勝、塚岡・仁科ペアが3位に入った。冬休みには基礎体力・技術の向上を目指して頑張りた。

《高男子ソフトテニス部》

6月22日(土)に国民体育大会の岡山県予選が浦安総合公園でおこなわれ、竹内・小野組、本古谷・藤井聖組の2ペアが出場したが、いずれも初戦で敗退した。夏季休暇中には8月6日(火)7日(水)に備前テニスセンターで開催された岡山県ソフトテニス交流大会に参加して県内の高校と団体戦をおこない、チーム力の強化を図った。8月21日(水)～28日(水)にかけては、水島緑地福田公園テニスコートで高梁川流域高等学校ソフトテニス大会がおこなわれた。個人戦では竹内・岡野組と黒田・藤井直組が3回戦まで進出したのが最高で、上位入賞は果たせなかった。団体戦ではAチームは2回戦で不戦勝、3回戦で高松農業高校Bに2対1で勝利して4回戦に進んだが、玉島高校Aに1対2で惜しくも敗れ、ベスト8でトーナメントを終えた。またBチーム

は1回戦で不戦勝、2回戦で倉敷工業高校Aに0対3で敗れた。

9月28日(土)には岡山県ソフトテニス新人大会の備西地区予選が玉島の森テニスコートでおこなわれ、竹内・藤井聖組が準優勝、本古谷・藤井直組が6位に入賞し、この2ペアが県大会への出場権を獲得した。そして11月2日(土)3日(日)に浦安総合公園でおこなわれた県大会(個人)では竹内・藤井聖組が4回戦まで進出したが第1シードに敗れ、ベスト32でトーナメントを終えた。同ペアは続く敗者復活戦でも惜敗し、中国大会まであと一勝届かなかった。いっぽう県大会(団体戦)は11月9日(土)～10日(日)に水島緑地福田公園でおこなわれた。1回戦で岡山朝日高校に3対0で勝利したが、2回戦で玉野高校に1対2で敗れた。

《高女子ソフトテニス部》

夏季休業中、8月21日(水)～22日(木)、28日(水)に行われた高梁川流域高等学校ソフトテニス大会では、個人戦、団体戦共に初戦敗退した。

9月21日(土)には岡山県ソフトテニス新人大会の備西地区予選が行われ、4人では内山が優勝、西岡が準優勝、中務が3位に入賞した。9月21日～22日に備西支部合同練習会に出場した。男子団体では5勝0敗で優勝した。女子団体では6勝0敗で優勝した。男子個人では唐川が準優勝、石井がベスト8、青木(L2)がベスト16に入った。女子個人では内山が優勝、中務が準優勝、東と藤澤がベスト4、西原がベスト8、森藤(L1)がベスト16に入った。

10月13日に井原男女個人戦卓球大会に参加した。一般女子の部では内山が準優勝、西岡が3位、ふれあいトーナメントでは難波もなみが優勝した。中学女子の部では中務が優勝、藤澤が準優勝した。10月19日～20日に備南西地区秋季大会に出場した。男子団体では予選リーグで3勝1敗、続く決勝リーグで2勝し、3位で県大会出場を決めた。女子団体では予選リーグで4勝し、決勝で鴨方に3ー1で勝ち、優勝し、県大会出場を決めた。男子個人では唐川が準優勝し、県大会出場を決めた。女子個人では内山が優勝、中務が準優勝、東と藤澤がベスト4、西

ペアが出場したが、井上・間田ペア、坂本・國富ペアが敗者復活戦を勝ち上がり、県大会への出場権を獲得した。

11月2日(土)に行われた県大会(個人戦)では、井上・間田ペア、坂本・國富ペアが、が出場したが、惜しくも初戦敗退した。

県大会(団体戦)が11月9日(土)～10日(日)に行われ、1チームが出場し、初戦を突破することができたが、惜しくも2回戦目で敗れた。

《卓球部》

6月30日に井原男女総合個人戦卓球大会に参加した。中学2女子の部で難波楓(L3)と内山(L2)がベスト8、工藤(L3)と難波もなみ(L3)と西岡(L3)と中務(L2)と藤澤(L2)がベスト16、ふれあいトーナメントで西原(L2)が2位に入った。

7月6日～7日に備南西地区夏季総体に出場した。男子団体では決勝リーグで木之子に敗れたが、3位に入賞し県大会出場を決めた。女子団体では決勝で木之子に3ー0で勝ち、優勝し、県大会出場を決めた。男子個人では奥村(L3)がベスト4に入り、県大会出場を決めた。女

原と森藤がベスト16に入り、6名が県大会出場を決めた。

11月10～11日に岡山県秋季大会に出場した。男子団体では予選リーグで勝央に1―3、琴浦に1―3、灘崎に2―3で敗れ予選敗退。女子団体では予選リーグで新田に3―0、東兎に3―0、長船に3―1で勝ち、決勝トーナメント準々決勝で操南に3―2で勝ち、準決勝で就実に0―3で敗れたが、創部初となる3位入賞を果たした。男子個人では唐川が2回戦で敗退した。女子個人では内山と東がベスト32に入り、中務が2回戦で敗退、西原と藤澤と森藤が1回戦で敗退した。

《高卓球部》

7月20日に国体岡山県予選会（少年の部）に出場した。男子個人では西岡（U2）と平岡（U2）がベスト64に入った。女子個人では遠藤（U2）と笠原（U2）と児嶋（U1）と小見山（U1）がベスト64に入った。

8月6日に倉敷市長杯争奪卓球大会に出場した。男子団体では準決勝で倉敷工業Aに3―1で敗れたが、3位に入賞した。女子団体では決勝で倉敷青陵に3―1で勝ち、優勝した。男子個人では西岡

が3位に入賞し、平岡と中嶋がベスト16に入った。女子個人では児嶋が3位に入賞し、笠原がベスト8、遠藤がベスト16に入った。

8月16～18日に西日本高校オープン新人卓球研修会に参加した。男子団体では金光学園Aが3位リーグで1位に、金光学園Bが3位リーグで5位になった。女子団体では3位リーグで5位になった。

8月23日に岡山県夏季卓球大会に出場した。2年男子シングルスでは西岡がベスト8、平岡と井上全峰（U2）がベスト16、藤澤（U2）がベスト32に入った。1年男子シングルスでは掛谷（U1）と中嶋（U1）と原田（U1）がベスト32に入った。2年女子シングルスでは遠藤がベスト32に入った。1年女子シングルスでは児嶋がベスト16、小見山がベスト32に入った。

9月7日に全日本予選会（ジュニアの部）出場した。男子個人では西岡がベスト8、平岡がベスト32に入った。

11月2～3日に岡山県秋季卓球大会に出場した。男子団体では予選リーグで高松農業に3―0、津山工業に3―1、真庭に3―0で勝ち、決勝トーナメントで

玉島商業に3―0で勝ち、岡山芳泉に2―3で敗れベスト16となった。女子団体では予選リーグで玉野に3―1、岡山南に3―1、岡山後楽館に3―1で勝ち、決勝トーナメントで笠岡商業に3―0、興陽に3―1で勝ち、準々決勝で就実に0―3で敗れたが、順位決定リーグで岡山東商業に3―1で勝ち、岡山操山に3―1で勝ち、玉島商業に1―3で敗れ、2勝1敗で6位となった。

《中野球部》

7月6、7日に笠岡市営球場で行われた備南西地区夏季総体では、2回戦でシード校の新吉中学校に江原徹くんの3点本塁打などによって7―0で勝利した。代表決定戦では、金光中学校に1―0で辛勝し、4年ぶりの夏季県大会出場を決めた。

7月26日から29日にかけて倉敷マスカットスタジアムなどで行われた県大会では、1回戦桑田中学校に2―0で勝利し、2回戦は福田南中学校を相手に投手の宮崎洗くんがノーヒットノーランを達成し、4―0で勝利。3回戦では、旭東中学校を7―0で6回コールドで下した（参考記録ながらノーヒットノーラン）。

中国大会をかけた準決勝戦は、倉敷南中学校を3―1で下し、中国大会初出場を決めた。さらに決勝戦では、総社東中学校を2―0で下し、岡山県夏季総体初優勝を決めた。また、大会を通じて最優秀選手賞を宮崎洗くんが、打撃賞を八田敦司くんが獲得した。

8月7、8日に鳥根県松江総合運動公園野球場などで行われた中国大会は、1回戦で、大田第一中学校（鳥根）を3―1で下した。続く2回戦は瀬野川中学校（広島）を相手に0―0延長9回でも決着がつかず、特別延長戦の末1―0でサヨナラ勝ちを収めた。全国大会のかけた準決勝戦では、江津中学校（鳥根）に2―0で勝利し、全国大会初出場を決めた。決勝戦では、平田中学校（鳥根）に延長8回の末2―3で敗れ、準優勝に終わった。

8月17日から愛知県豊橋市民球場などで行われた全国大会は、1回戦で、八木中学校（奈良）を相手に投手の宮崎洗くんがノーヒットノーランを達成し、1―0で勝利した。2回戦では、桐蔭学園中学校（神奈川）に1―6で敗れた。全国大会ベスト16で敗退しましたが、部員3

年生25名、2年生20名、1年生17名は丸となって戦うことができました。多くの方々の支えがあり、このような結果を得ることができました。感謝申し上げます。

新チームとなり、9月21、22日にどんぐり球場などで行われたシード決め大会では、1回戦、金光中学校に3―0で勝利し、2回戦は、小北中学校に2―2で特別延長の末2―1でサヨナラ勝ちを収めた。シード校決定戦では金浦中学校に7―0で勝利し、シードを獲得した。

10月19、21日に井原球場などで行われた備南西地区秋季大会では、1回戦笠岡西中学校に3―0で勝利し、2回戦笠岡東中学校に2―0で勝利し、代表決定戦では、井原中学校に1―0で勝利し2年連続の県大会出場を決めた。投手の塩谷紀和くんが3試合連続完封勝利を収めた。

11月11、12日に津山スポーツセンター野球場などで行われた県秋季大会では、1回戦、福田南中学校に延長8回1―0で投手の塩谷紀和くんがノーヒットノーランを達成し勝利した。続く2回戦、福田南中学校に2―0で勝利し、準決勝進出

を決めた。準決勝では、優勝した竹荘・大和中学校に1―2で敗れ、3位に終わった。

今後は、11月16、17日に玉島の森野球場などで行われる第14回玉浅良寛杯に出場する予定。また、年末には高知遠征で県外のチームと対戦することとなる。

《高野球部》

7月13日から、行われた第95回全国高等学校野球選手権岡山大会において、1回戦で玉野高校に4対5で敗れた。

9月1日からは平成25年度秋季岡山県高等学校野球大会西部地区予選が行われ、笠岡工業高校に7対0（7回コールド）、古城池高校に5対2、高梁日新高校に10対3（8回コールド）で勝利し、県大会出場を決めた。

9月28日から行われた平成25年度秋季岡山県高等学校野球大会において1回戦は岡山城東高校に2対3で敗れた。

11月9日から行われた平成25年度岡山県高等学校野球一年生大会において、1回戦で岡山南高校に3対2（延長10回）、2回戦でおかやま山陽高校に3対2で勝利した。3回戦は不戦勝で進んだ4回戦は岡山理大附属高校と6対6で延長15回

までで勝負がつかず、抽選の結果敗退した。ベスト8であった。

《中サッカー部》

7月6日・7日に笠岡陸上競技場で行われた地区大会において、1回戦矢掛中学校に3対1で勝利し、2回戦金浦中学校に2対3で惜敗をし、県大会出場を逃してしまいました。そして、この大会が3年生にとっては最後の大会になりました。

8月3日に玉島の森で行われたライオンズ杯で鴨方中学校と対戦し0対2で負けました。

キャプテン北山 誠君、副キャプテン赤澤 翔君、小川 太士君を中心に42名の部員を引つ張っていった三年生には本当に感謝しています。このチームの全試合の結果は45試合で31勝8敗6分けて、総得点は141点、失点は41点でした。三年生が残してくれた強い気持ちをしっかりと受け継いで、新チームは今、毎日練習に励んでいます。

新チームのキャプテンは吉川 和希君、副キャプテンは神原 隆太君、品川陽太郎君で、総勢30名。9月21日・22日に寄島三ツ山公園で行われた支部大会で

は、高屋中学校に5対0で勝利、笠岡東中学校に1対1で引き分け、里庄中学校に4対0で勝利、笠岡西中学校に4対0で勝利し、リーグを1位で地区大会を迎えることができました。10月19日・20日に笠岡陸上競技場・寄島三ツ山公園で行われた地区大会では1回戦高屋中学校に9対0で勝利、2回戦鴨方中学校に2対0で勝利、決勝戦は大雨の中で寄島中学校に1対3で負け準優勝し、三年ぶりの県大会に出場することができました。11月10日に新見防災公園サッカー場で行われた県大会では、大雨の中倉敷北中学校と対戦しました。0対0の引き分けでPK戦になり4対5で惜敗しました。新チームの全試合の結果は18試合で11勝6敗1分けて、総得点は44点、失点は16点です。これからも、金光学園サッカー部は自分たちのチームに誇りを持ち、多くの人たちに支えていただいていることへの感謝の気持ちを忘れず、感動できる試合を目指していきますので、どうぞ応援をよろしくお願いいたします。

《高サッカー部》

高円宮杯U-18サッカーリーグ2013 OKAYAMAの結果は、6月16日、対

水工B(1-4)、6月23日、対一宮(1-3)。夏の練習試合の結果は、8月4日、対笠工(1-2)、対邑久(1-3)、8月5日、対商大附属(1-0)、対理大付属(3-2)、8月7日、対理大付属(3-3)、対商大附属(2-2)、8月8日、対城東(1-1)、対玉島(1-2)、8月11日、対玉商(2-1)、(2-1)、対笠商(2-4)。校内合宿を8月10日~12日に行った。選手権大会一次トーナメントの結果は、9月15日、対新見(2-1)、9月22日、対笠岡(0-5)。高円宮杯U-18サッカーリーグ2013 OKAYAMAの第1節の結果は、9月29日、対青陵(0-2)。第2節の結果は、11月9日、対関西B(0-3)であった。日々の練習や練習試合で得たことを公式戦の成果へつなげようと奮闘中である。

《中柔道部》

7月25日に岡山武道館で行われた県総体に中3江草ひな子、中2石井敦浩が出場した。江草は女子52kg級で決勝戦まで勝ち進んだが敗退し、2位となり、中国大会の出場権を得た。石井は男子66kg級に出場したものの、2回戦で敗退した。

8月10日に島根県岩見武道館で行われ

た第29回中国中学校柔道選手権大会に江草ひな子が出場した。一回戦は開始直後の内股が決まり一本勝ちであったが、結果は2回戦敗退でベスト8であった。

9月1日に岡山武道館で行われた金光桶柔道選手権に江草ひな子が出場した。この大会は中学生から社会人の県から推薦された選手により無差別で試合が行われる大会である。江草は2回戦で敗退した。

10月19日に里庄武道館で行われた備南西地区秋季大会において、男子団体戦で3位となった。男子個人戦では50kg級で十倉拓哉が県大会出場決定戦で勝利。55kg級では黒川拓馬と虫明春哉が3位。66kg級で石井敦浩が1位。73kg級で橘高光哉が2位となり、出場者5名全員が県大会の出場権を得た。

11月10日、11日に岡山武道館で行われた秋季県総体において、男子団体戦は1回戦に中道中と対戦し、2-3で惜敗した。男子個人戦では、66kg級で石井敦浩がベスト8であった。その他、中1橘高光哉が2回戦敗退、中2黒川拓馬、中1虫明春哉、十倉拓哉が1回戦敗退であった。

《高柔道部》

11月2日、3日に玉野スポーツセンターで行われた岡山県新人柔道大会において、団体戦では2回戦で作陽高校に0-5で敗退し敗者復活戦に出場したものの、1回戦で岡山工業高校に0-5で敗退した。個人戦では、高1姫路怜が100kg超級でベスト8となった。高2石井誠一、西井孝輔、高1松村敬太が2回戦敗退となった。

《中・高柔道部》

8月16日から19日に金光学園柔道場で中高部員全員で合宿を行った。OBの先輩方や、他校の生徒の参加もあり、実り多き練習を行うことができた。また18日には保護者会を行った後、B B Qのお手伝いを頂きつつ行うことができました。大変ありがとうございました。

《中剣道部》

7月6日(土) 備南西地区大会が笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、団体試合は男子、女子とも1回戦敗退。男子個人試合は、池田弦輝(1年)、日名啓介(1年)、松本椋平(2年)、平川龍之介(2年)の4名が出場し、ともに2回戦敗退。女子個人試合は細川未希(1

年)、金尾涼乃(1年)、土光零(2年)、山西琴子(3年)、土路生優里(3年)、青木桃子(3年)の6名が出場し、土光が2回戦敗退。他の5名は1回戦敗退であった。

8月18日(日) 第8回浅口市剣道大会が天草公園体育館で開催され、団体試合は1回戦敗退。個人試合は金尾、日名が1回戦、細川、池田、平川が2回戦敗退。小西が3回戦敗退であった。

8月4日(日)、細川未希(1年)が1級合格。

10月19日(土) 備南西地区秋季大会が笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子団体試合が3位。個人試合は池田、日名、平川が1回戦敗退。細川、松本が2回戦敗退であった。

11月10日(日) 第32回笠岡剣道大会が笠岡総合体育館で開催され、1回戦で福山尚南剣友会に敗れた。

11月24日(日) 第60回玉島大会が玉島の森体育館で開催され、倉敷南中Aに敗れた。

《高剣道部》

11月2日(土)~3日(日) 岡山県高校新人剣道大会が津山東体育館で開催さ

れ、男子個人試合に田村(2年)、文箭(1年)が出場。2名とも健闘し、延長戦となるが、1回戦敗退であった。

11月24日(日)第60回玉島大会が玉島の森体育館で開催され、興譲館Dに敗れた。

《中男子バスケットボール部》

7月に行われた備南西地区大会では第2シードから出場し、笠岡東中学校を下すも決勝戦では、里庄中学校に敗れ、惜しくも県大会出場はならなかった。この大会を最後に中学の部活動を引退する3年生が試合を引っ張り活躍した。

7月末から新チームとなり、9月に行われたシード決め大会では、夏休み練習の成果を発揮し、第2シードを得ることができた。10月に行われた備南西地区大会では、第2シードから出場し、鴨方中学校を下すも決勝戦では、矢掛中学校に敗れ県大会出場はならなかった。今後行われる大会、そして夏の総体で良い結果を出せるように日々の練習をまじめに取り組んでいきたい。

《中女子バスケットボール部》

9月21日(土)に笠岡市民体育センターで行われた備西支部大会では、1回戦笠

岡東中と対戦。笠岡東中2・25学園と勝利し、準決勝では、寄島中と対戦。学園30・17寄島中と勝利し、決勝戦は、鴨方中と対戦。学園8・14鴨方中に負け、シード権を逃した。(試合は、ハーフゲーム)10月19日・20日に里庄中学校で行われた備南西地区秋季大会では、1回戦、学園69・15矢掛中で勝利。準決勝では、里庄中と対戦。学園49・43里庄中で勝利し、決勝に進むことができた。決勝戦では、鴨方中と対戦。学園49・53鴨方中で、鴨方中に惜敗し、準優勝となったが、県大会への出場権を得ることができなかった。

《高男子バスケットボール部》

部員10名、マネージャー2名で県大会出場を目標に、日々の練習に励んでいる。9月21日に行われた、第44回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会備中区予選会が行われ、倉敷天城高校と対戦した。結果としては、85―45と大差での敗退であったが、内容としては次につながるものだったと感じた。部員からも、「楽しくてあつという間に終わった」とか「もう一度やったら勝てる気がする」など前向きな発言が見られた。

新人戦備中区予選会を目前に控えているが、この大会でぜひ県大会出場を果たしたいと思っている。

《高女子バスケットボール部》

選抜優勝大会が9月21日(土)倉敷天城高校で開催され、1回戦で倉敷青陵高校に敗れた。また、新人優勝大会備中区が11月16日(土)総社高校で開催され、1回戦でおかやま山陽高校に敗れた。

《中男子バレーボール部》

平成25年度の戦績
6月に行われた支部大会、地区大会と順調に勝ち進み、7月に行われた県大会では準優勝しました。

8月に広島県で行われた中国大会では準々決勝で敗れ、ベスト8になった。

チームが一新し、新チームとして9月の支部大会では優勝。10月の地区大会でも優勝。県大会でも優勝をねらったのですが、ベスト8でした。

これは、常勝のプレッシャーをはね返す事が出来なかった結果だと思っています。今後は自分たちの持てる力を十分に発揮出来るようにメンタル面を鍛えたいと思います。これからも皆さんのおかげをいただきながら、日々精進してまいります。

《中女子バレーボール部》

6、7月に行われた夏季支部、地区大会では予選リーグで敗退。新チームになってから9月、10月に行われた秋季支部、地区大会でも予選リーグ敗退となったが、部員数6名で善戦した。1月の春中予選に向けて頑張りたい。

《高男子バレーボール部》

部員16名で活動しています。11月9日・10日に行われた岡山県高等学校男女バレーボール選手権大会では、3回戦県立玉島高等学校、準々決勝 関西高等学校に勝ち、準決勝 県立岡山東商業高等学校に敗れ、第3位という成績でした。全国大会を目標にこれからもがんばりたい。

《少林拳法部》

11月2日(土)、岡山工業高校において「第24回岡山県少林拳法新人大会」が開催された。成績は以下の通り。

男子規定単独演武の部 高1、三浦泰成・藤原知弘・森藤啓介・成田裕介(以上予選敗退)

男子自由単独演武の部 高1、中野真聡(第2位)・永井綾介(第7位)・三宅爽広(予選敗退)

男子自由組演武の部 高1、山中勘輔・紺藤壮一郎組(第4位)
女子規定単独演武の部 高1、有田胡桃(第2位)・高松茉優(予選敗退)
男子自由単独演武の中野真聡、女子規定単独演武の有田胡桃は来年3月に香川県丸亀市で開催される、第17回全国高等学校少林拳法選抜大会の出場権を得た。

《社会問題同好会》

10月5日(土)、6日(日)、岡山県立朝日高校で行われた「人権・平和・民主主義を考える第48回岡山県高校生交流集会」に3年生の井上雄太、大西寿弥が参加し、他校の生徒と活発な討議を行った。大西は開会式で自身の3年間の活動を発表し、分散会では「徴兵制」に関するレポート発表を行った。また、井上は分散会の司会を務めるとともに、「少子化」に関するレポート発表を行った。

《家庭科同好会》

高校1年生の部員が5名(女子)に増えた。刺繍や洋裁など、各部員が興味のあることにそれぞれ取り組んでいる。

《バドミントン同好会》

9月21日・22日に総社高校体育館にて行われた、岡山県高等学校バドミントン

生徒入賞作品

▼第59回青少年読書感想文
岡山県コンクール 自由図書

入賞

『愛』

高一 一組 藤澤 彩加

違う……。

私はこの話を読み終えて一番にそう思った。私は自分の家族が大好きだ。だから家族愛については、それなりに分かっているつもりだった。たとえば、家族みんなで助け合うとか、みんなでご飯を食べて、笑って、テレビを見て……とにかく家族が一つになって、たくさん辛いことや辛いこと、嬉しいことや幸せなことを分かち合うのが家族愛だと思っていた。でも、違った。この本に書かれている家族愛は、上手く言葉にすることはできないけれど、自分の想像していたものよりも、ずっと深く、重みがあって、温かさがあった。

アキラは母のいない生活に少しさみしさを感じていたのかもしれない。本には

雲の手もあてさせた。そして和尚はこう言った。

「おまえにはお母ちゃんがおらん代わりに、背中を温めてくれる者がぎょうさんおらんじゃ、それを忘れるなや」と。

私はこの言葉を聞いてはっとした。この話を読みながら私はいつのまにかアキラはかわいそうだなと思っていた。でも違ったのだ。アキラには母親の代わりに支えてくれる人が本当に大勢いた。アキラは幸せ者だったのだ。私はそれに気づいた時には泣いていた。気がついたら涙が溢れていたのだ。この言葉はきつと寒くてどうしようもなかったアキラの心に温かさを与えてくれたはずだ。私はアキラが少し羨ましくなった。

「秘すれば、花」

この言葉が私には宝物になった。この言葉は、なんでも正直に本当(真実)のことを告げればいいのではない、という意味だ。アキラの母親は実はアキラをかばって、荷物の下敷になって亡くなった。ヤスはアキラに母さんは事故で亡くなったとだけ言ってそれ以外のことは言わなかったのだ。アキラに自分のせいで母親が死

らう。しかし、このことはいつまでも隠し通せるわけではなかった。ある日、アキラは自分の母親代わりになってくれているたえ子に聞いた。自分の母親は、どんな事故で亡くなったのか、教えてほしい……と。このことをたえ子から聞いたヤスはとても慌てて、迷ったと思う。真実を伝えるべきかどうか。確かにいつかは真実を伝えないといけないだろう。しかし今、アキラは小六だ。思春期にさしかかるこの時期に言うべきなのだろうか。迷い苦しんだ挙句、ヤスは言った。

「お父さんを助けてくれたんじゃ、お母さんは。」と。

私はあれこれ考えていた思考が瞬時に止まった。電気が走ったかのように心がしびれた。ヤスは自分のせいで母ちゃんは死んだのだと嘘をついたのだ。私は隠しきれなくなった時、はっきり言ってこの真実を伝えるかどうかは分からない。ただもし言うのだったら、アキラを飛ばして死んだのだ、と言ってしまってもいい。もしかししたら、この嘘によってアキラに恨まれ嫌われるかもしれない。たった二人きりの親子なのにそれはあまりにも辛いだろう。でもヤスはきつ

と、それも承知でこの嘘をついたのだろう。アキラが自分のことを責めないために……。愛のある美しい嘘だと私は思った。それと同時に、親というものはこんなに優しく強いのかと思った。親の立場になって初めて分かる強さだろう。私も親になればこんな強さが生まれてくるのだろうか……そう思った。

この話では親のいない二人が互いに助け合い、一つの家族を作った。家族というものはどこまでも深く果てしない愛でできている。どんな家族にだって、それぞれの愛があり、それを大きくしながら生きている。家族には終わりが無いということをこの作品で改めて学んだ。どれだけ多くの人が、この愛に気づき、幸せに感じているのだろうか……。

入選

『とんびを読んで』

高一 六組 岡本 紗枝

「こんな父親だと面倒くさいなあ。」と、読みながら何度となく思ってしまった。しかし、常に温かい何かに包まれているような感覚もずつとしていた。それは、いったい何なのだろう。

父親ヤスと、息子アキラの二人きりの生活。なかなか想像のつきにくい状況だ。私は娘で父親も母親も健在だ。姉も一人いる。生まれた時からごく当たり前のように、家族に囲まれているのだ。もっと広く言えば、祖父、祖母、おじ、おば、いとこなど血の繋がった人達がたくさんいる。考えてみると血の繋がりとはいかなののだろうか。血の繋がった人と、そうでない人との関係とは、どう違うのだろうか。

この本の中では、血の繋がりに関係なく、たくさんの人達の愛情を受け、育っていくアキラの様子が描かれている。たくさんの人々が色々な形の愛情を注いでいるのだ。中でも強く印象に残っているのは、ヤスの同級生照雲の父親で、お寺の和尚をしている海雲の取った行動だ。母親を亡くし淋しい思いを抱えているアキラと、母親の分まで頑張るが空回りするヤスを見かねて、周りの人は再婚をすすめる。私もやはり、小さな子供の心を満たしてあげる為にも、新しい母親が来るのはいいことではないかと思った。

しかしそんな時海雲和尚は、夜の雪舞う海に、ヤスとアキラを連れて行き、体

感させるのだ。ヤスにアキラを抱かせ、アキラの体の前半分はヤスの体の温もりで温かい。しかし背中中は、凍てつく寒さに襲われる。でも、そこへ海雲和尚の掌、照雲の掌、ヤスの掌を当てて、アキラの背中を温める。それは、どんなに淋しくても、皆がアキラのことを、温かく見守り支えてあげられることが出来るということの意味していた。

それと同時に海雲和尚は、父親ヤスにも伝えることがあった。それは、目に見えないものをしっかりと見つけ、大切にしろということだ。幼いアキラの淋しさを、しっかりと受け留め、強くなれというものだった。そんな思いをヤスに伝える海雲和尚も、この親子の辛さや淋しさを思いやっていた。そして、ヤスもまた、たくさんの人達に愛され支えられ生きていくのだ。

私は、子育てはまだしたことがないが、近年起こっている痛ましい子供の事件や事故は気になる。こんな風に、たくさんの人達に見守られながら、親や子供が人と繋がり、支え、支えられていけば、防げることが多いのではないかと思う。核家族化が進み、少子化が進んでいると嘆

いても始まらない。私達は、そんな時代に生まれたのだ。たとえ血の繋がった人の数が減っていったとしても、こんな風に、人を思いやり関わりを持つていけば、殺伐とした世の中を変えることが出来るのではないだろうか。人と繋がっていたと思う気持ちは、昔も今も変わらない人間の心理だと思う。

ところで、この本の最大の魅力は、やはり父親ヤスの不器用な生き方と、あふれんばかりの息子アキラへの愛情だろう。読んでいて何度も、面倒くさい父親だと思いつつも、憎めない人間性に笑った。いつも、どんな時でも、息子を心から愛し、大切に思っている。人は、誰かに大切にされていると実感すること、自分自身を大切にすることではないだろうか。そして、同じように他の人のことも大切に出来るのではないだろうか。そんな経験をたくさん身に付けられれば、多くの人を大切にし、世の中が温かさにあふれ社会全体が、良い方向へ向かっていくのではないだろうか。

この本を読んで常にか温かいものに包まれているような感覚がしたのは、多くの人達の人に対するあふれんばかりの

愛情が描かれていたからだと思う。そして、時に面倒なほど大げさで重いようなヤスの愛情と、同じようなものが、私にも注がれていることに、気付かされたからだ。

今回この本を読んで父親の存在や愛情について、ふと立ち止まって考えられたような気がした。幼い頃は、大きく何でも頼れる存在だった父に、今では別の感情を抱いている自分がある。時に、小さな子供に話し掛ける様な口ぶりで接してゆくことや、他人に恥ずかしくなる程、娘のことを自慢する姿や、バカバカしいようなことで心配している様子を私はあきれたり腹立たしく思ったりすることがあった。

今回ヤスを通して、父が昔と変わらず愛情いっぱいなことに気付かされた。なんとなくは分かっていたとしても、素直に受け留められない自分がいた。

私もいずれ大人になる。父の存在と立場が逆になる日が来るだろう。あんなに大きく頼れる存在だった父を、私自身が支えていかなくはないいけない日も来るだろう。生まれた時からたくさんの愛情を注いでくれた父のことを、ずっとずっと大切にしたいと思った。

入賞おめでとう

▼第26回国際平和ポスターコンクール
テーマ「私たちの世界 私たちの未来」

- 最優秀賞 中一 西江 天志 (左)
優秀賞 中一 衛本 廉温 (右)
優秀賞 中一 山崎 知 (中央)



▼税についての作文

- 玉島税務署長賞 中三 吉原 龍彦
浅口市長賞 中二 太田 綾
納税組合長賞 中三 八方 駿
中二 中西 凱

▼税についての習字

- 法人会長賞 中三 竹内 勝己

▼平成25年度明るい選挙啓発
ポスターコンクール

- 入選 中三 工藤 智恵

▼岡山県高校生
英語エッセイコンテスト

- 入選 高二 松浦 里佳

▼岡山県高校生
英語レターコンテスト

- 入選 高一 池原 京香

▼第50回全国読書大会
団体奨励賞受賞

▼浅口市英語スピーチコンテスト
中学校 暗唱の部

- 準優勝 目黒 達之
特別賞 佐藤 伸樹

▼中学校第59回青少年読書感想文
岡山県コンクール

- | | | | | |
|-----|----|------|----|----|
| 県入選 | 一年 | (自由) | 家島 | 彩花 |
| | | (自由) | 梅村 | 美稀 |
| | | (指定) | 西江 | 天志 |
| | | (指定) | 豊田 | 茉佑 |
| | 三年 | (自由) | 久安 | 悟史 |
| | | (課題) | 真鍋 | 桃香 |
| 県佳作 | | (指定) | 大山 | 涼子 |
| | | (指定) | 菊池 | 果南 |



学園だより

カナダ留学生訪問 7月16日、カナダからの留学生(ダーガン・ケンジ君)が来校し、高2の3組で授業を受けた。一日だけだったが、国際交流に協力した。**終業式** 7月19日、1学期の終業式が中高合同で行われ、部活動での県大会上位入賞生徒及び中国大会出場生徒の賞状伝達式と全国大会出場生徒の壮行会も併せて行った。

特別授業・補習 中1から高2が7月20日、27日まで特別授業を、高3は補習を実施した。また後期の特別授業(宿題テストを29、30日に実施)を8月24日、30日まで、高3は補習を同様に行った。

個別面談 中高の全クラスで行われた。一学期を振り返り、夏休みの過ごし方や進路選択等について個別に懇談を実施した。

租税教室 7月25日、中3が特別授業中の7月25日(木)、玉島税務署の職員

の方をお呼びして、中学3年生を対象に租税教室を行った。租税は何に使われているか学んだうえで、租税の種類や制度を学んだ。難しい言葉もあったが、多くの生徒は真剣な表情で聞いており、租税に対する理解を深めた。

オープンスクール 7月28日、PART1として第15回目の一日入学が行われ、小学生や中学生および保護者を合わせて1327名の参加があった。授業体験や部活動体験を通して、金光学園での生活の一部を楽しく体験した。また、9月14・15日、PART2のほつま祭では206名の小学生が参加した。10月6日、PART3の中学体育会は雨天の影響で中止になった。

韓国仁川英語村研修 7月30日、8月6日、細川佳裕先生、山本早紀先生の引率で中2の生徒13名、中3の生徒4名、高1の生徒4名(計21名)が、韓国の仁川英語村で宿泊英語研修を体験した。

東京研修 8月5日・6日に、中3の生徒11名、高1の生徒11名(計22名)で、東京研修へ行った。初日、卒業生の案内で、東京大学と早稲田大学を訪問した。2日目は、卒業生で衆議院議員の柚木

道義議員の案内で、国会議事堂内を見学した。議員食堂・本会議場・議長室・赤じゅうたんなど、普段入ることのできない場所へ行くことができた。

SSH宿泊研修 8月19日、数学科の田中誠先生、久野恵理子先生、理科の内村政司先生、英語科の久保田光盛先生、国語科の高司和道先生の引率で、中1の生徒6名、中2の生徒8名、中3の生徒15名、高1の生徒3名、高2の生徒4名(計36名)が京都大学を訪問し、研修した。

金光学園杯小学生卓球大会 8月4日、第12回の卓球大会が小体育館で行われた。雨の日にもかかわらず、男女十五チーム(計68名)の参加があり、シングルスで男女別に優勝杯を競い合った。

金光学園杯小学生バレーボール大会 9月1日、第11回のバレーボール大会が小体育館で行われた。雨の日にもかかわらず、17チームの参加があり、レベルの高い熱戦が繰り広げられた。

教職員夏季研修 8月22・23日、全教職員が参加して26回目の夏季研修が行われた。初日は鈴木晃彦先生(岩手県立花巻北高等学校長)から『建てよ、理想の

殿堂を』深化する一座建立を目指して『』というテーマで講演を聴き研修した。

その後、教育開発部と東大プロジェクトからの報告を受けて、八グループに分かれて、家庭学習の習慣化等についてグループ討議をした。2日目はほつま・探究見直し委員会とSSH委員会の報告を受けて同様にグループ討議を行った。午後からはそれらの報告会を持った。2日間に渡る実り多き研修会となった。

特別授業・課題テスト 8月24日から28日まで、中1から高2の後期特別授業が行われた。8月29日・30日・9月1日には宿題テストが実施された。

始業式 9月2日、中高合同で2学期の始業式が行われた。校長式辞の後、生活課からの諸注意、生徒会課から夏休み中の部活動及び生徒活動の表彰があった。

教育実習 9月2日から14日あるいは21日までの期間、卒業生5名が2週間または3週間の実習を行った。

街頭交通指導 9月2日から10日まで教員が通学路に立ち、交通安全・交通マナーについての指導を行った。また、21日から30日まで「秋の交通安全県民運動」

に合わせて指導を行った。

進路委員会 9月10日、20日、27日、高3の先生が中心となって、指定校推薦の校内選考を行い、大学への推薦者を決定した。

霊地親睦の集い 9月16日、霊地各機関対抗の球技大会(バレーボール)が行われ、学園教職員が参加した。バレーボールは決勝トーナメントに進出し、4位となった。親睦を深めることができた。

高校体育会 9月27日、晴れやかな秋空の下、高校体育会が華やかに行われた。高校進学懇談会 9月30日、公立中学校の先生方を対象に平成26年度高校入試の説明等を行った。

教祖生誕前夜奉祝行事 9月28日、例年のように金光駅から本部境内まで教祖の生誕を祝う提灯行列が行われ、学園教職員も参加し、学園御輿を担ぎ行列を盛り上げた。

塾対象入試説明会 10月1日、朝2時間は全学年全クラスを授業公開し、その後の全体会では平成26年度の中学・高校入試などについて説明を行った。**高二大祭奉仕** 10月9日、高2は金光教本部祭場の清掃奉仕を行った。

進路学習 10月10日、中3は高校からの学習活動に備えて進路適性検査を実施した。10月25日、中2は講師に卒業生の遠藤寛子氏を招いて「コミュニケーションを楽しもう」と題して、中学校生活の後半の過ごし方を進路面から考えた。

進路講演 高2は10月4日、香川大学の山崎裕正先生による進路講演『賢い大学の選び方』を、高1と保護者は10月11日にベネッセコーポレーションの廣戸裕司氏による講演『高校1年生の今をどう過ごすべきか』をそれぞれ聴いた。

中学体育会 10月5日、台風の影響による雨のため、時間を遅らせて10時30分から中学体育会を開催した。野球部の生徒やボランティアの方々の協力もあり、プログラムを一部変更しての体育会になった。

高三大祭参拝 10月10日、心の教育の一環として、高3生徒全員が金光教本部での生神金光大神大祭に参拝した。

アメリカから大学生来校 10月11日、浅口市国際交流協会が主催する京都アメリカ大学コンソーシアムの留学生が来校し、本校の生徒と交流した。留学生の在籍校は、ボストン大学・ブラウン大学・

シカゴ大学・コロンビア大学・コーネル大学・エモリー大学・ハーバード大学・ペンシルベニア大学・プリンストン大学・スタンフォード大学・ワシントン大学・イエール大学・ミシガン大学・ヴァージニア大学。

学部・学科説明会 10月25日、高1・2は14の希望の学部学科に分かれて、大学の教職員の方からそれぞれの学部・学科の説明を聞いた。

性教育 7月12日、「ウイメンズクリニック・かみむら」の助産師、福原ひろこ先生の講演が高2を対象に行われた。「皆さんに伝えたいこと」～自分で守ろう自分の体と心、そして性々をテーマに、男女の思春期の性に違いについて考えた。中1は10月22日にDVD「正しく知る！二次性徴Q&A」「男女交際Q&A」を見て感想文を書き、11月5日に男女の身体の相違を理解し、お互いに尊重することを学んだ。

教育相談保護者会 10月19日、安原こずえ先生を講師に、5名の保護者と教育相談員とで交流会が行われた。

飯盒炊爨 10月30日、中1は遥照山の藤波キャンプ場で飯盒炊爨を行った。中2

での教育キャンプの予行演習を兼ねて班毎に豚汁を作り、深まり行く秋の中、楽しいひとときを過ごした。

中学・高校入試模擬テスト 10月27日、

来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、11月3日、来春の高等学校入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生（希望者）を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試受験希望者には面接を行った。その後、入試説明が行われ、それぞれに平成26年度入試についての説明を行った。

知事来校 11月12日、伊原木知事が来校され、高校2年6組の探究クラスの英語のプレゼンテーションや中学1年の校長による心の教育の授業を参観された。**心の教育** 11月12日に中1は金光道晴校長から『金光学園の歴史を学ぶ』と題した話を聞き、創立記念式を前にして金光学園の精神を学んだ。

読書会 高1は10月4日に、高2は10月11日に、中3は11月29日に、中2は11月22日に、中1は11月26日にそれぞれ学年で希望の本を選び、各グループに分かれて、意見交換をした。

行われました。演題は、「世界へはばたく若者へー大学の教育現場からのメッセージ」という演題で講演していただいた。

里見川環境改善プロジェクト 7月25日に第1回川教室が開かれ、浅口市・里庄名町内小中学生と共に39名の生徒が参加した。この教室では、里見川で水辺の植物を採取・観察し標本作りに挑戦した。さらに第2回川教室が11月2日に開催された。（38名参加）今回は、川にある砂のでき方と水の浄化について観察・実験し、河川の特徴を学んだ。

金光学園サイエンスチャレンジ 11月23日に小学5・6年生を対象に開催された。（45名参加）内容は知識を問う筆記問題と問題解決型の課題（ストロークタワー）と図形の組み合わせを考える3課題に4～5人1組で取り組んだ。本校からは科学部が参加した。

サイエンスチャレンジ岡山2013 10月4～6日、中高生の希望者15人が大阪大学で開催された合宿に参加した。また、11月24日、玉島の中国能開高等学校で開催され、昨年に引き続き、本校からも2チームが参加した。内容は、数学分野・

化学物理分野・生物地学分野の3分野において、筆記競技と実技競技が行われた。その結果、実技競技のフィールドワークとペーパーブリッジで高1高2の生徒がそれぞれ2位を獲得した。

お祝い 前校長の佐藤元信氏が、福武教育文化振興財団より福武哲彦校長賞を岡田雅子教諭には私学協会功労者表彰を受賞されお慶び申し上げます。山路先生には7月27日に長男が、園田先生には7月30日に次女が、小畑先生には9月28日に次男がご誕生、お慶び申し上げます。

お悔やみ 神田常務理事の御母堂には8月1日に、新谷先生の御岳父には8月21日に、岡崎先生の御丈母には10月26日に、高1の桜田侑己さんの御尊父には12月2日に（ご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

人権教育 中2は11月5日にビデオ「ひめゆりの塔」を見て感想文を書き、話し合いをした。また、中3は11月25日にビデオ「どんぐりの家」を見て、感想文を書いた。

教科担当研究会 中1から高1まで、日頃の授業の様子や中間考査の結果についての情報が交換され、個々のすぐれた点や改めたい点が指摘検討された。**ロードレース** 11月18日、中学校全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

探究Ⅱ課題研究発表会 11月20日、今年度の金光学園教育研究会（課題研究合同発表会）が開催された。探究クラスの生徒が研究している内容について、理系・文系の英語ゼミは英文ポスター発表に挑戦し、文系の他のゼミは日本語で行った。各大学の助言の先生方や留学生より貴重なアドバイスを頂き、実り多き発表会となった。

創立119年記念式 11月14日、創立119年の記念式がほつま体育館で厳かに挙行された。今年は大西有三氏（関西大学特任教授 京都大学名誉教授）の記念講演が

伊原木岡山県知事 来校

11月12日（火）、伊原木岡山県知事が来校された。これは、知事の施政方針の一つである「教育再生」の一環として、県下2校の私立学校を訪問視察され、その1校として金光学園を訪問された。高校2年の探究授業、中学全般の授業、中学1年の心の教育（金光校長が授業実施）を参観後、常務理事や校長等と懇談をするなど、精力的に視察された。

高校2年の探究授業では、天文ゼミ・天文部のプレゼンに専門的な質問や感想を述べられたり、英語のプレゼンに対し英語で質問などされた。また、中1の心の教育では、「君達は今一番幸せな時だよ。これからやる気になれば何でもできる。頑張ってください。」と話をしてくださった。



北海道コース

高2 修学旅行



オーストラリア コース



シンガポール・マレーシアコース



教室の窓から

「学園の楷の木と二二〇記念館」

学園の正面玄関左手、オーバードリッジの南に一本の楷の木がある。毎年、見事に紅葉し、近くを通る学園生や教職員、保護者に美しい姿を見せている。今年も夏の猛暑を乗り越えて、今、色鮮やかに秋を謳歌している。

「楷の木」といえば、岡山に住む人ならばまず一番に備前市にある閑谷学校の二本の名木を思い起こすだろう。閑谷学校で孔子像を祀る「聖廟」に向かう石段の両脇に、一对の大きな楷の木がある。樹齢九十八年。ここでは、この木を「学問の木」と呼んでいる。今から約二五〇〇年ほど前の中国で、儒学の祖孔子が亡くなった。その墓所に多くの弟子たちが様々な樹木を供えたが、十哲の一人の子貢がこの木を植え、代々、受け継がれていくようになり、さらに、科挙（国家試験）の合格者にこの木で作った笏が贈られたことから学問の聖木とされるようになった。日本では、大正四年に初めて種子が持ち込まれ、植物学者の牧野富太郎博士が「孔子木」と和名をつけた。「学問の木」と呼ばれる楷の木を、学園内で身近に眺められるうれしさを噛みしめたい。

さて、間もなく「二二〇記念館」の建築が始まる。来年の、学園創立120年の記念事業の一つである。現在の特別教室棟の東側に、ガラス張り四階建てのモダンな姿が予定されている。一階は一学年生徒が机に座って集える大講義室、二階以上は美術・被服・音楽の各教室。学習に芸術にと、様々な活動が行えるマルチカルチャーセンターになるだろう。その「二二〇記念館」の「120」を「イチ・ニー・マル」と呼ぶのは面白い。今、東京の渋谷駅前スクランブル交差点から見通せる有名なビル「SHIBUYA109」。もとは、昭和54年に「ファッションセンター109」として東急グループが建てた若者文化の発信地である。その「東急グループ」の「東急」を「10・9」と置き換えて「いち・まる・きゅう」。さらに略して、通称「まるきゅう」と呼び慣わされている。今や日本の若者の文化のメッカとなりきっている感がある。これから何年も何十年も先の学園の文化の発信地として建築される願いをもって、渋谷に負けるなと「イチ・ニー・マル」。3年後には美術・被服・音楽の新しい生徒の文化が創造され発信されることを心から願いたい。

伝統的な学問の「楷の木」と新しい文化を発信する「二二〇記念館」。新旧とりどりの物が相まって、学園の歴史がまた刻まれようとしている。

編集後記

先月、東京で第28回トンボ絵画コンクールの表彰式に初めて参加させていただいた。本校の中学校が「環境大臣賞」を受賞したためだ。当日、リハール後、本番で賞状と記念の盾を受けとり席に着くと、高校時代の同級生から声を掛けられた。彼は株式会社トンボの社員として岡山から今回の仕事に当たっていた。その後、彼から株式会社トンボの社長（高26回卒、近藤知之氏）を紹介され、学園の近況について話をさせていただいた。1人での参加に心細い思いをしていたが、偶然の出会いを喜び、それに感謝し思い出に残る一日となった。

会はその後、「今の子供たちに伝えたいこと」というテーマで、作家のCW・ニコル氏が特別講演を行った。彼は幼少期に川でトンボと共に過ごした魚釣りのこと。かつてロンドンにはスズメがいたが今ではなくなってしまうこと。長野県にトンボの住める森を作ったこと。トンボが暮らすような自然を保護することの大切さを子供のような眼差しで語られた。

来年は是非生徒がこの話を伺えるように願っている。

平成25年 12月11日印刷
12月20日発行

編集者

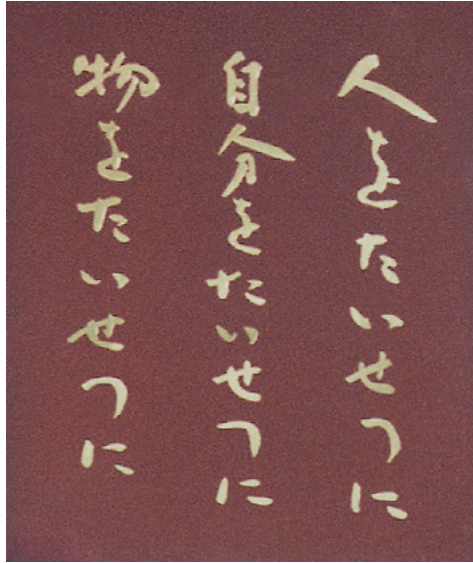
金光学園やつなみ保護者会
やつなみ編集部

印刷所

倉敷市船穂町船穂二〇九五一―一
玉島活版所

発行所

浅口市金光町古見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会



◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net